

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-9

＜第33週＞マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い／その他最新動向
＜7月＞性感染症・薬剤耐性菌感染症・結核について



注目すべき感染症
P.10-12

＜腸管出血性大腸菌感染症＞

第33週の報告数は158例で、第33週までの累積報告数は2,041例である



病原体情報
P.13-16

ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 2006年／ヘルパンギーナ患者から検出されているウイルス 2006年／アデノウイルス3型 2006年



速報
P.17-19

群馬県内の2つの保育園で発生した腸管出血性大腸菌(O26)感染症の集団感染例／3つの高校における腸管出血性大腸菌O157の集団感染事例－福岡市



海外感染症情報

＜今週は該当記事はありません＞



感染症の話
P.20-22

＜ウエルシュ菌感染症＞ヒトの感染症としては食中毒の他に、ガス壊疽、化膿性感染症、敗血症等が知られているが、食中毒が最も多発する



読者のコーナー
＜今週は該当記事はありません＞



グラフ総覧(33週)
P.23-29



グラフ総覧(7月)
P.30-34



7月のデータ
P.35-38



33週のデータ
P.39-50



発生動向総覧

※2006年4月からの報告システムの変更に伴い、疾病の並び順を一部変更しました。

<第33週コメント> 8月24日集計分

◆全数報告の感染症

注意:これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が集計の期日以降に届くこともあります。それらについては発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることになります。宜しく御理解下さい。

※感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを示します。

1類感染症: 報告なし

2類感染症: コレラ 2例(感染地域:フィリピン1例、インドネシア1例)

細菌性赤痢 10例

(感染地域:神奈川県1例、中国3例、ネパール1例、カンボジア1例、スリランカ1例、パプアニューギニア1例、インド/ネパール1例、疑似症1例)

3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 158例(うち有症者100例、HUS 5例)

感染地域:国内155例、米国(ハワイ)2例、国外(国不明)1例

国内の多い感染地:佐賀県(25例)、大阪府(9例)、岡山県(9例)、熊本県(9例)

年齢群:10歳未満(62例)、10代(24例)、20代(26例)、30代(12例)、40代(7例)、50代(9例)、60代(6例)、70歳以上(12例)

血清型・毒素型:O157 VT1・VT2(65例)、O26 VT1(44例)、O157 VT2(28例)、O111 VT1(3例)、O103 VT1(2例)、O25 VT1・VT2(1例)、O26 VT1・VT2(1例)、O91 VT1(1例)、O151 VT1(1例)、O121 VT2(1例)、O145 VT2(1例)、その他/不明(10例)

4類感染症: A型肝炎 3例(感染地域:石川県1例、長崎県1例、熊本県1例)

デング熱 1例(感染地域:フィリピン)

日本紅斑熱 1例(感染地域:鹿児島県)

マラリア 2例

三日熱1例(感染地域:パプアニューギニア)

熱帯熱1例(感染地域:ギニア)

レジオネラ症 10例(全て肺炎型)

年齢群:40代1例、50代2例、60代3例、70代4例

感染地域:茨城県2例、富山県2例、栃木県1例、石川県1例、愛知県1例、福岡県1例、国内(都道府県不明)1例、マレーシア1例(温泉)

5類感染症: アメーバ赤痢 12例(腸管アメーバ症8例、腸管外アメーバ症3例、腸管および腸管外アメーバ症1例)

感染地域:国内9例、中国1例、韓国1例、タイ1例

感染経路:経口2例、性的接触7例(異性間2例、同性間4例、不明1例)、不明3例

ウイルス性肝炎 5例

B型3例[感染経路:性的接触2例(異性間1例、同性間1例)]、不明1例

C型2例[感染経路:性的接触(異性間)1例、鋭利なものの刺入1例]

急性脳炎 1例(病原体不明、40代)

クロイツフェルト・ヤコブ病 1例(孤発性プリオン病古典型)

後天性免疫不全症候群 17例(無症候9例、AIDS 7例、その他1例)

感染地域:国内15例、国外(国不明)1例、国内/アフガニスタン1例

感染経路:性的接触15例(異性間3例、同性間12例)、不明2例

ジアルジア症 2例(感染地域:国内1例、セネガル1例)

梅毒 4例(早期顕症I期1例、早期顕症II期3例)

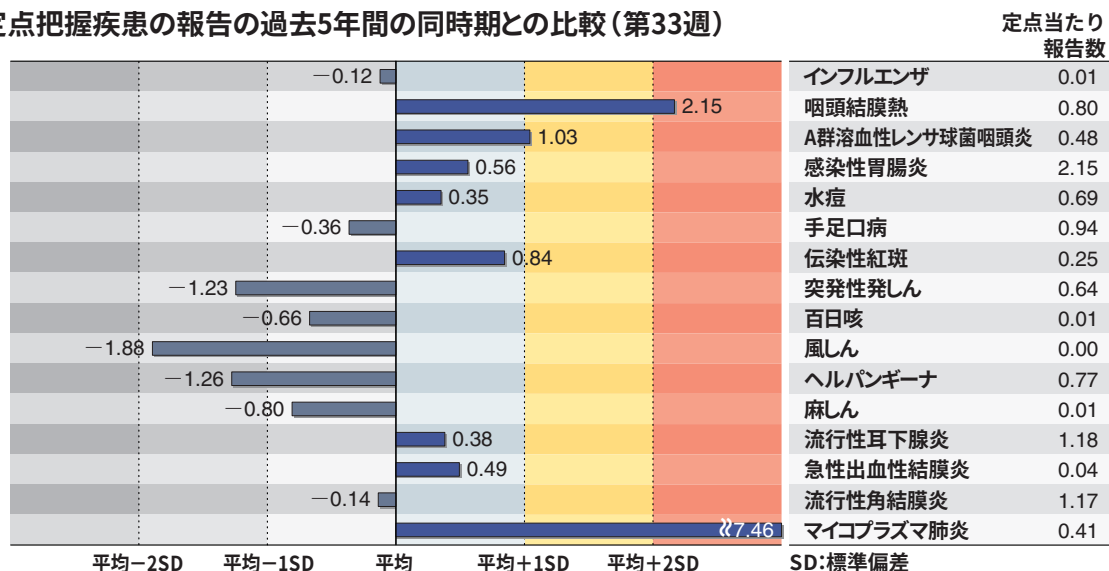
破傷風 2例(40代1例、70代1例)

(補)他に報告遅れとして、ライム病1例(感染地域:北海道)、急性脳炎2例(ともに病原体不明、ともに30代)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例(血清群:A群、30代)などの報告があった。

◆定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

定点把握疾患の報告の過去5年間の同時期との比較(第33週)



当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)との差をグラフ上に表現した。

インフルエンザ: 定点当たり報告数は第22週以降、減少が続いている。都道府県別では沖縄県(0.40)、宮崎県(0.09)、熊本県(0.04)が多い。

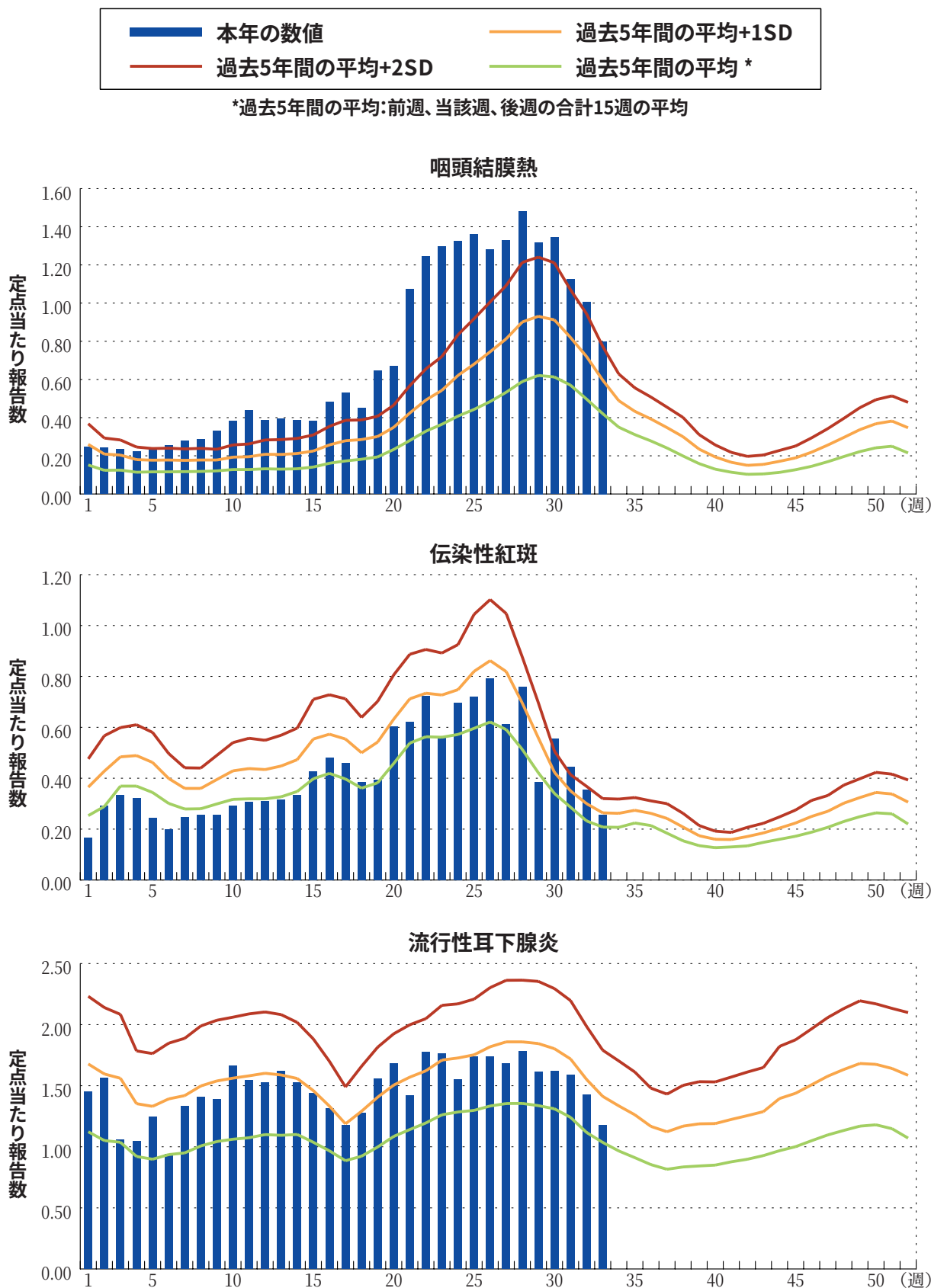
小児科定点報告疾患: **RSウイルス感染症**は70例の報告があり、報告数は減少した。年齢別では、1歳以下の報告数が全体の約80%を占めている。**咽頭結膜熱**の定点当たり報告数は3週連続して減少したが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では宮崎県(3.2)、奈良県(1.9)、鳥取県(1.8)、三重県(1.8)が多い。**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**の定点当たり報告数は第25週以降、減少が続いているが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では秋田県(1.00)、奈良県(0.91)、大分県(0.89)が多い。**感染性胃腸炎**の定点当たり報告数は3週連続して減少した。都道府県別では福井県(8.6)、大分県(5.7)、宮崎県(5.0)が多い。**水痘**の定点当たり報告数は2週連続して減少した。都道府県別では福井県(1.8)、徳島県(1.6)、埼玉県(1.1)が多い。**手足口病**の定点当たり報告数は3週連続して減少した。都道府県別では福井県(4.6)、石川県(3.4)、新潟県(3.3)が多い。**伝染性紅斑**の定点当たり報告数は3週連続して減少した。都道府県別では宮崎県(0.71)、静岡県(0.57)、宮城県(0.48)が多い。**百日咳**の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では千葉県(0.10)、沖縄県(0.03)が多い。**風しん**の定点当たり報告数は横ばいであった。都道府県別では岩手県(0.03)、香川県(0.03)が多い。**ヘルパンギーナ**の定点当たり報告数は第28週以降、減少が続いている。都道府県別では高知県(2.1)、北海道(2.0)、青森県(2.0)が多い。**麻しん**の定点当たり報告数は横ばいであった。都道府県別では奈良県(0.06)、大分県(0.06)が多い。**流行性耳下腺炎**の定点当たり報告数は3週連続して減少した。都道府県別では新潟県(3.6)、鹿児島県(3.4)、長野県(2.6)が多い。

基幹定点報告疾患: **マイコプラズマ肺炎**の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別では大阪府(2.4)、群馬県(2.4)、愛媛県(1.2)が多い。

(補) 北海道、宮城県からの麻しんの報告は修正予定である。

図. 主要定点把握疾患の過去5年間との週別比較(2006年第1～33週)

青のバーで示す本年の定点当たり報告数が赤のラインを超えているときには、過去5年間の週と比較してかなり多いことを示す。



〈7月コメント〉

◆性感染症について(8月11日集計分) 性感染症定点数: 948

●定点当たり報告数の推移

2006年7月の月別定点当たり患者報告数は、性器クラミジア感染症が2.95(男1.29、女1.66)、性器ヘルペスウイルス感染症が1.00(男0.44、女0.57)、尖圭コンジローマが0.59(男0.31、女0.28)、淋菌感染症が1.12(男0.88、女0.24)で、男女とも、4疾患のうち性器クラミジア感染症が多かった(図1)。

前月に比べると、性器クラミジア感染症は男性で減少、女性で微減、性器ヘルペスウイルス感染症は男性で増加、女性で微増、尖圭コンジローマは男女ともに微減、淋菌感染症は男性で微減、女性で増加した(30～33ページ「グラフ総覧」参照)。男女別に過去5年間の同時期と比較すると、性器ヘルペスウイルス感染症が男性で平均+2標準偏差(SD)を、女性で平均+1SDを超えた。一方、性器クラミジア感染症は男女ともに平均-2SDを下回り、また、淋菌感染症は男性で平均-2SD、女性で平均-1SDを下回った(図2)。

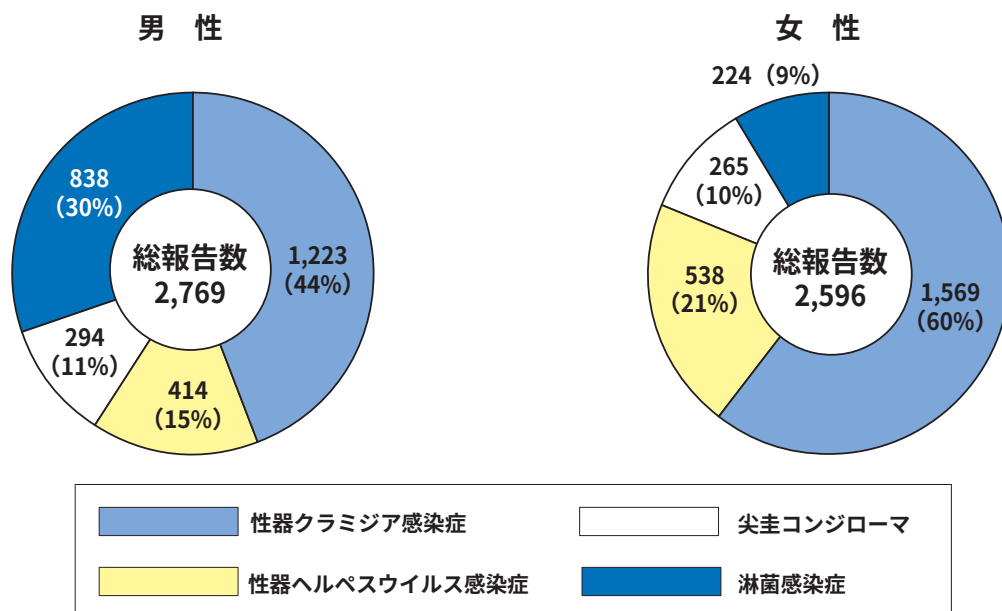
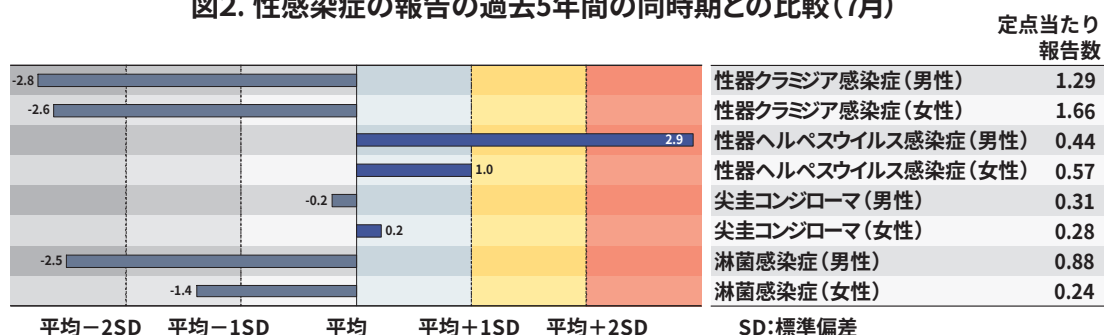


図1. 各性感染症が総報告数に占める割合(7月)

図2. 性感染症の報告の過去5年間の同時期との比較(7月)



当該月と過去5年間の平均(過去5年間の前月、当該月、後月の合計15月の平均)との差をグラフ上に表現した。

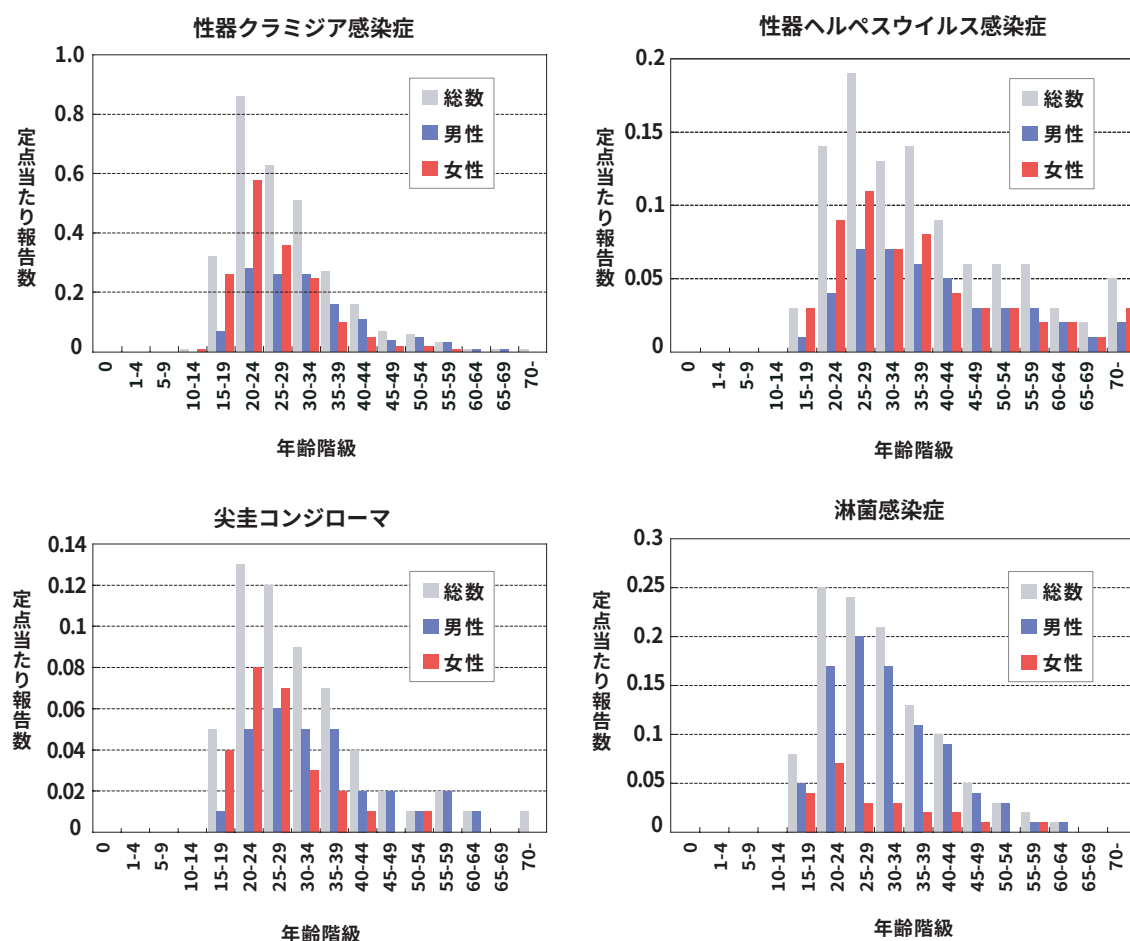
●性別・年齢階級別の定点当たり報告数

定点当たり報告数を男女別・年齢階級別(5歳毎)にみると、性器クラミジア感染症は男性では15～19歳群から、女性では10～14歳群から報告がみられ、他の3疾患では、男女ともに15～19歳群から報告がみられた(図3)。

定点当たり報告数のピークは、性器クラミジア感染症では男女ともに20～24歳群、性器ヘルペスウイルス感染症では男性で25～29歳群および30～34歳群、女性で25～29歳群、尖圭コンジローマでは男性で25～29歳群、女性で20～24歳群、淋菌感染症では男性で25～29歳群、女性で20～24歳群であり、女性が男性に比べやや若い傾向が認められる。性器クラミジア感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症では男女ともに、ピーク以降、年齢が高くなるに従い減少傾向が認められ、50代以降の報告は僅かである。しかし性器ヘルペスウイルス感染症では、男女ともに50代以降の年齢群の報告も少なくない。

また、淋菌感染症では全ての年齢群において男性が女性よりも多いが、他の3疾患では、3疾患すべての29歳以下の年齢群と、性器ヘルペスウイルス感染症の35～39歳群で女性が多かった。ただし、男女の比較については、性感染症定点が泌尿器科系、婦人科系及び皮膚科系などの診療科から構成され、それらの比率の影響を受ける可能性がある。

図3. 性感染症の性別・年齢階級別分布(7月)

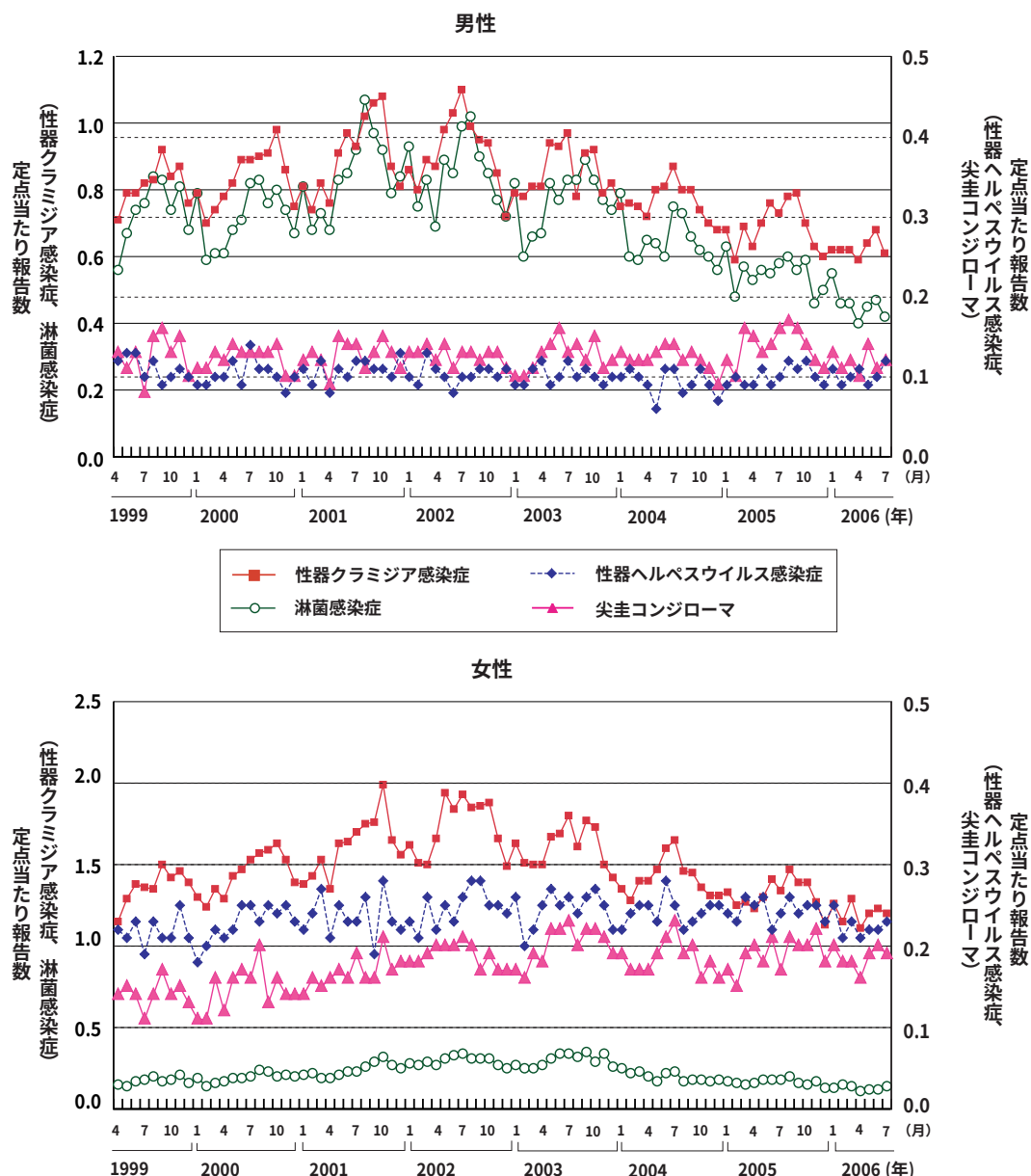


●若年齢層における定点当たり報告数の推移

感染症法が施行された1999年4月以降について、若年齢層(15～29歳)における各疾患の定点当たり報告数を男女別・月別に図4に示した。2001年以降、男女ともに性器クラミジア感染症と淋菌感染症は減少傾向がみられ、性器ヘルペスウイルス感染症と尖圭コンジローマはほぼ横ばいである。前月との比較では、男性では性器クラミジア感染症と淋菌感染症は減少したが、性器ヘルペスウイルス感染症と尖圭コンジローマは増加し、女性では性器クラミジア感染症と尖圭コンジローマは減少したが、性器ヘルペスウイルス感染症と淋菌感染症は増加した。

注: 本発生動向調査で得られる性感染症患者報告数および解析結果は、現在の定点の構成に基づく制限のもとに解釈される必要があります。詳細はIDWR週報2000年第46週号(10月報)4ページの説明を参照してください。

図4. 若年齢層における性感染症の年別・月別推移(15～29歳、1999年4月～2006年7月)



◆薬剤耐性菌感染症について(8月11日集計分) 基幹定点数(7月): 458

●月別

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染症

4.33(前月: 4.32、前年同月: 3.77)

定点当たり報告数は、例年年間を通じてほぼ一定である。7月は前月よりわずかに増加し、過去7年間の同月との比較では最も多かった。

ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)感染症

0.75(前月: 1.23、前年同月: 0.93)

定点当たり報告数は、例年春から初夏にかけて(4～6月)と冬(11、12月)に多く、夏(7～9月)に少なく推移している。7月は前月より大幅に減少し、過去7年間の同月との比較では下位に属した。

薬剤耐性緑膿菌感染症

0.15(前月: 0.13、前年同月: 0.15)

定点当たり報告数は、例年後半が前半に比してわずかに多い傾向がある。7月は前月より増加したが、6月も5月より増加しており、7月は1～5月の平均より約60%高い値になっている。また、過去7年間の同月との比較では上位に属した。

●年齢階級別

MRSA感染症…高齢者に多く、70歳以上が全体の61%を占めている(図1)。

PRSP感染症…小児と高齢者に多い。5歳未満が全体の57%を占める一方、65歳以上が全体の23%を占めている(図2)。

薬剤耐性緑膿菌感染症…高齢者に多く、70歳以上が全体の77%を占めている(図3)。

●性別(女性を1として算出した男女比)

MRSA感染症…男: 女=1.8: 1

PRSP感染症…男: 女=1.5: 1

薬剤耐性緑膿菌感染症…男: 女=3.1: 1

●都道府県別

MRSA感染症…定点当たり報告数は山口県(9.3)、栃木県(8.6)、高知県(8.4)が多い。

PRSP感染症…定点当たり報告数は富山県(6.2)と千葉県(3.9)が突出して多く、この2県は過去4カ月も上位1、2位であった。

薬剤耐性緑膿菌感染症…報告総数が69件にとどまるため、都道府県別定点当たり報告数の評価は困難。

図1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

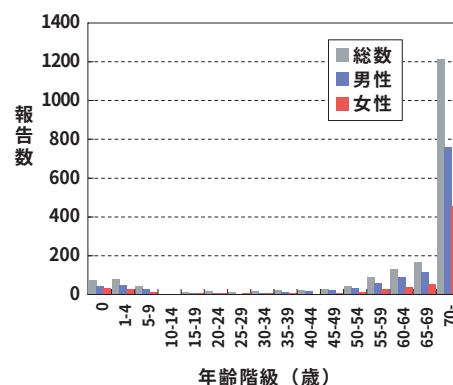


図2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

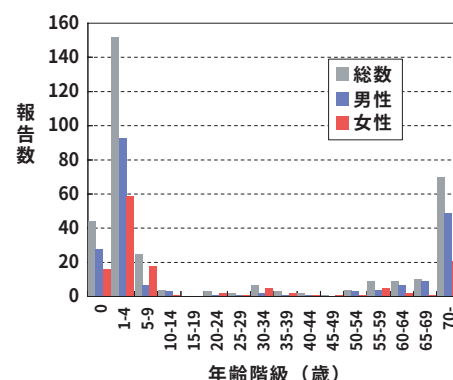
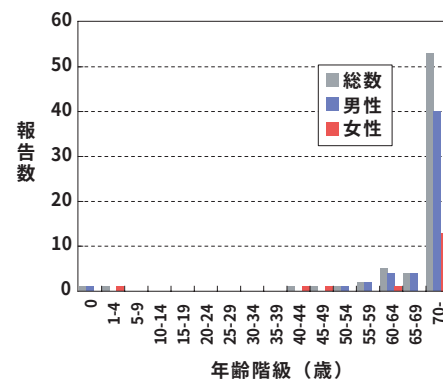


図3. 薬剤耐性緑膿菌感染症



◆結核サーベイランス月報(8月23日集計分)

7月の新登録患者数は2,240人(男性1,382、女性858人)で、このうち活動性肺結核患者は1,791人(うち喀痰塗抹陽性者は879人)であった。都道府県・政令指定都市別の新登録患者数は、東京都(253人)、大阪府(大阪市を除く)(152人)、大阪市(111人)、千葉県(千葉市を除く)(92人)、埼玉県(さいたま市を除く)(90人)が多い。

また、別掲により集計されているマル初者数*は208人であった。

*マル初者…結核の感染が強く疑われるが発病はしておらず、発病予防のための内服を行っている者。

詳しいコメントは、結核研究所の結核発生動向調査結果報告(<http://www.jata.or.jp/tbmr/tbmr.htm>)をご覧ください。



注目すべき感染症

◆腸管出血性大腸菌感染症

2006年の腸管出血性大腸菌感染症の報告数は第15週(27例)から増加が認められ、第20週(59例)に50例を超え、第21～25週は80例前後で推移した。第26～29週は140例前後で推移した後、第30週(237例)には200例を超え、第31週171例、第32週151例で、第33週は158例である。本年第33週までの累積報告数は2,041例であるが、今までのところ例年(2000年1,871例、2001年3,033例、2002年2,175例、2003年1,360例、2004年2,194例、2005年2,059例)と比べ、特に多いとは言えない(図1)。

第33週に診断された158例についてみると、報告の多かった都道府県は佐賀県(25例)、東京都(11例)、大阪府(9例)、熊本県(9例)であった(図2a)。そのうち佐賀県の24例、熊本県の8例は、第32週に続く保育園における集団発生である。また2006年4月から、国内を感染地域とする場合に、県名などの詳細情報を届け出るようになったが、第33週に感染地域として多かった都道府県は、報告の都道府県とほぼ同様で、佐賀県(25例)、大阪府(9例)、岡山県(9例)、熊本県(9例)であった(図2b)。さらに、国外を感染地域とするものが3例〔米国(ハワイ)2例、国不明1例〕みられた。性別では男性67例、女性91例であり、年齢階級別(10歳毎)では0～9歳(62例)が最も多く、39%を占めた。また有症状者は100例で、無症状病原体保有者が58例であった。無症状病原体保有者は、食品産業従事者の定期検便によって発見される場合もあるが、多くは探知された患者と食事を共にした者や、接触者の調査などによって発見される場合が多い。分離された菌の血清型・毒素型別では、O157 VT1・VT2(65例)、O26 VT1(44例)、O157 VT2(28例)の順に多かった。

第1～33週の累積報告数2,041例についてみると、報告の多かった都道府県は大阪府(176例)、東京都(156例)、愛知県(118例)、福岡県(111例)、群馬県(102例)である(図3)。性別では男性966例、女性1,075例であり、年齢階級別(10歳毎)では0～9歳(821例)が最も多く、40%を占めている。性別・年齢群別にみると、0～9歳および10～19歳では男性が女性より多く、それ以上の年齢群では女性が男性より多い(図4)。また有症状者は1,347例(66%)で、無症状病原体保有者が694例である。性別・年齢群別に症状の有無をみると、男女ともに、30～50代では無症状病原体保有者が多く、それ以外では有症状者が多い。分離された菌の血清型・毒素型では、O157 VT1・VT2(860例)、O157 VT2(432例)、O26 VT1(430例)の順に多かった。

溶血性尿毒症症候群(HUS)は報告遅れ分や追加報告を含み、第33週に5例の報告があり、累積では55例となった。2006年4月からHUS発症例の届出は、病原体の分離ができない症例であっても、便から直接のペロ毒素の検出や、血清抗体の検出によって届出対象となった。55例のうち、便から直接のペロ毒素の検出によるものが1例、血清抗体の検出によるものが14例届け出られた。死亡については、第33週までに3例の報告がみられている。しかし、HUSなどの合併症や死亡については、届け出時点以降での発生が十分反映されていない可能性があり、発生があった場合の追加・修正報告をお願いしている。

2006年も保育施設での集団発生が相次いで見られている他、飲食店や展示動物に関連した集団発生もみられている。今後も発生の多い状況が続くと予想され、その発生動向には注意が必要である。食品の取り扱いには十分注意して食中毒の予防を徹底するとともに、手洗いの励行などにより、ヒトからヒトへの二次感染を予防することが大切である。また保育施設においては、特にオムツ交換時の手洗い、園児に対する食前の手洗い指導を徹底し、簡易プールなどの衛生管理にも注意を払う必要がある。

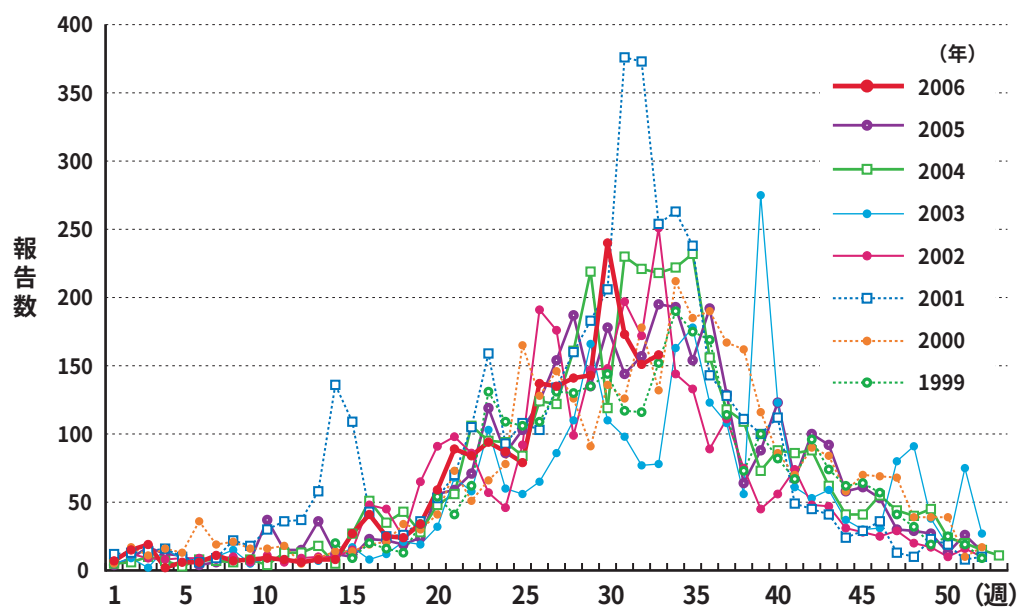


図1. 腸管出血性大腸菌感染症(無症状病原体保有者含む)の年別・週別発生状況

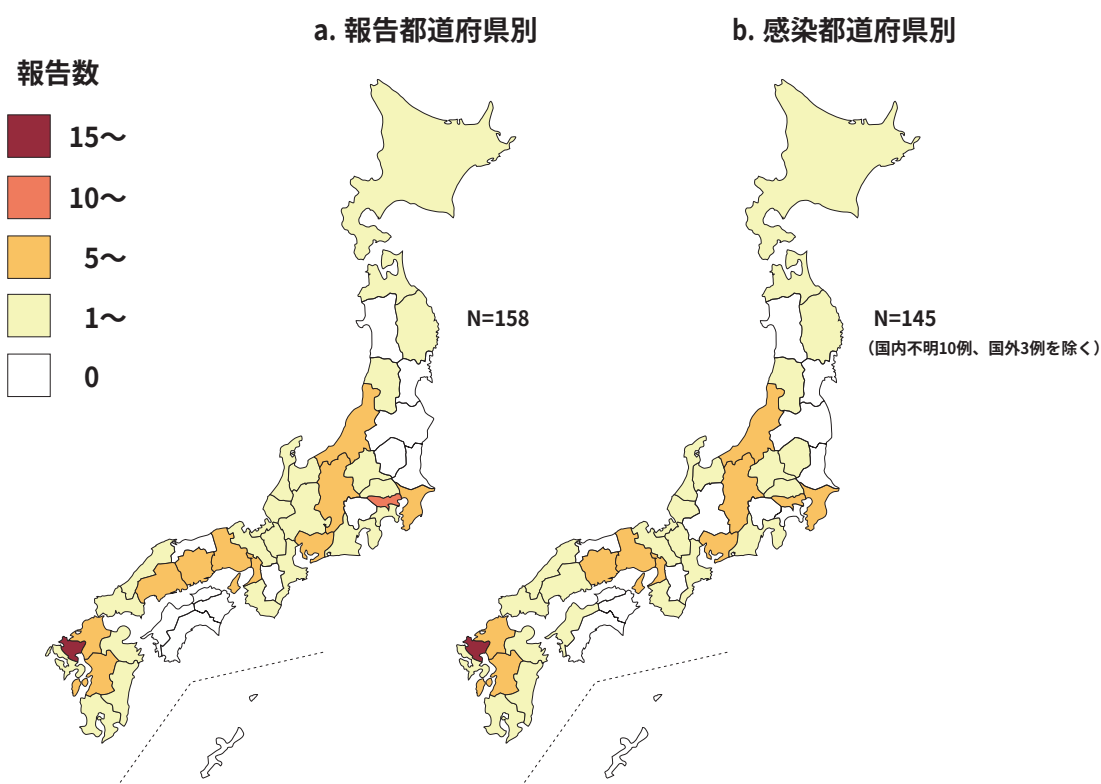


図2. 腸管出血性大腸菌感染症の都道府県別報告・感染状況(2006年第33週)

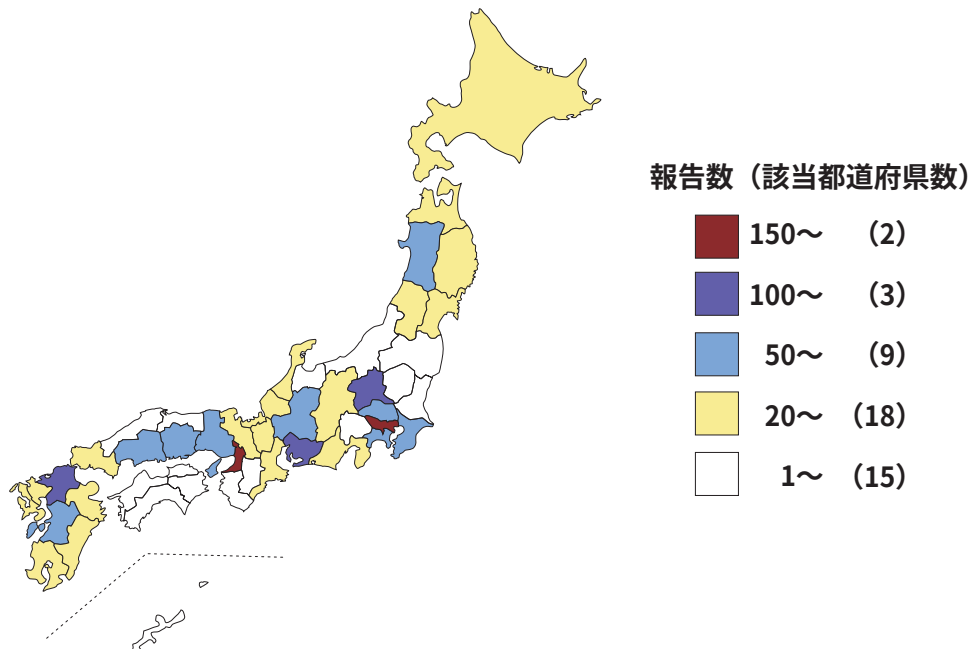


図3. 腸管出血性大腸菌感染症の都道府県別報告状況(2006年第1～33週)

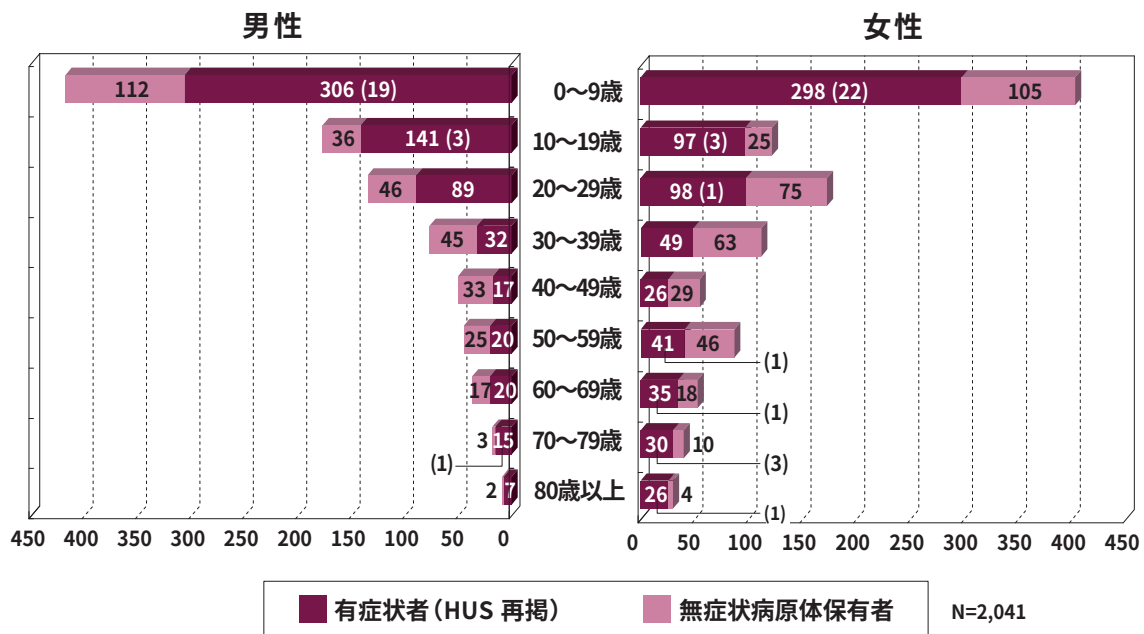


図4. 腸管出血性大腸菌感染症の性別・年齢群別・症状の有無別報告数(2006年第1～33週)



病原体情報

*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。

各都道府県市の地方衛生研究所(地研)からの検出報告です。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

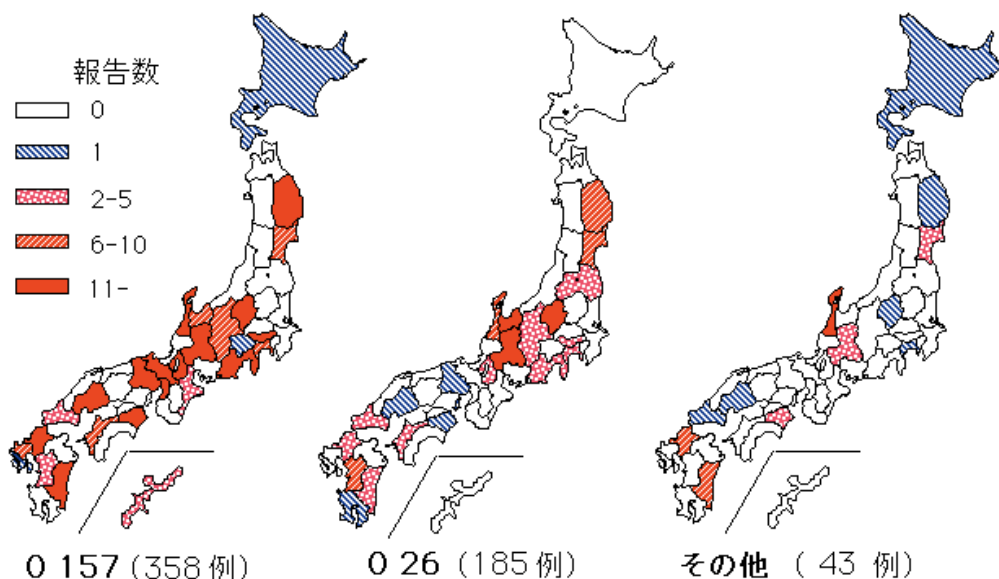
(2006年8月24日現在報告分)

◆ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 2006年

2006年の検出総数は586件で、O157が358件、O26が185件、その他の血清型が43件報告されている。O26による保育所での集団発生例が第24週と第27週に群馬県で(本号17ページ「速報」参照)、第30週に岐阜県で報告されている。また、第26週にはO157による3つの高校での集団発生例が福岡市で報告されている(本号19ページ「速報」参照)。

都道府県別Vero毒素産生性大腸菌分離報告状況、2006年

(病原微生物検出情報: 2006年8月24日現在報告数)



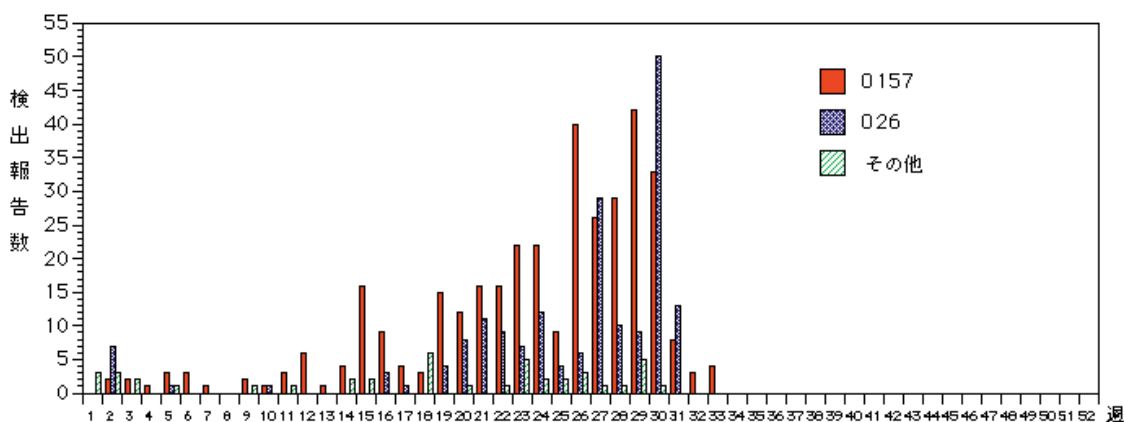
各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。

IASR

Infectious Agents Surveillance Report

週別Vero毒素産生性大腸菌分離報告数、2006年

(病原微生物検出情報: 2006年8月24日現在報告数)



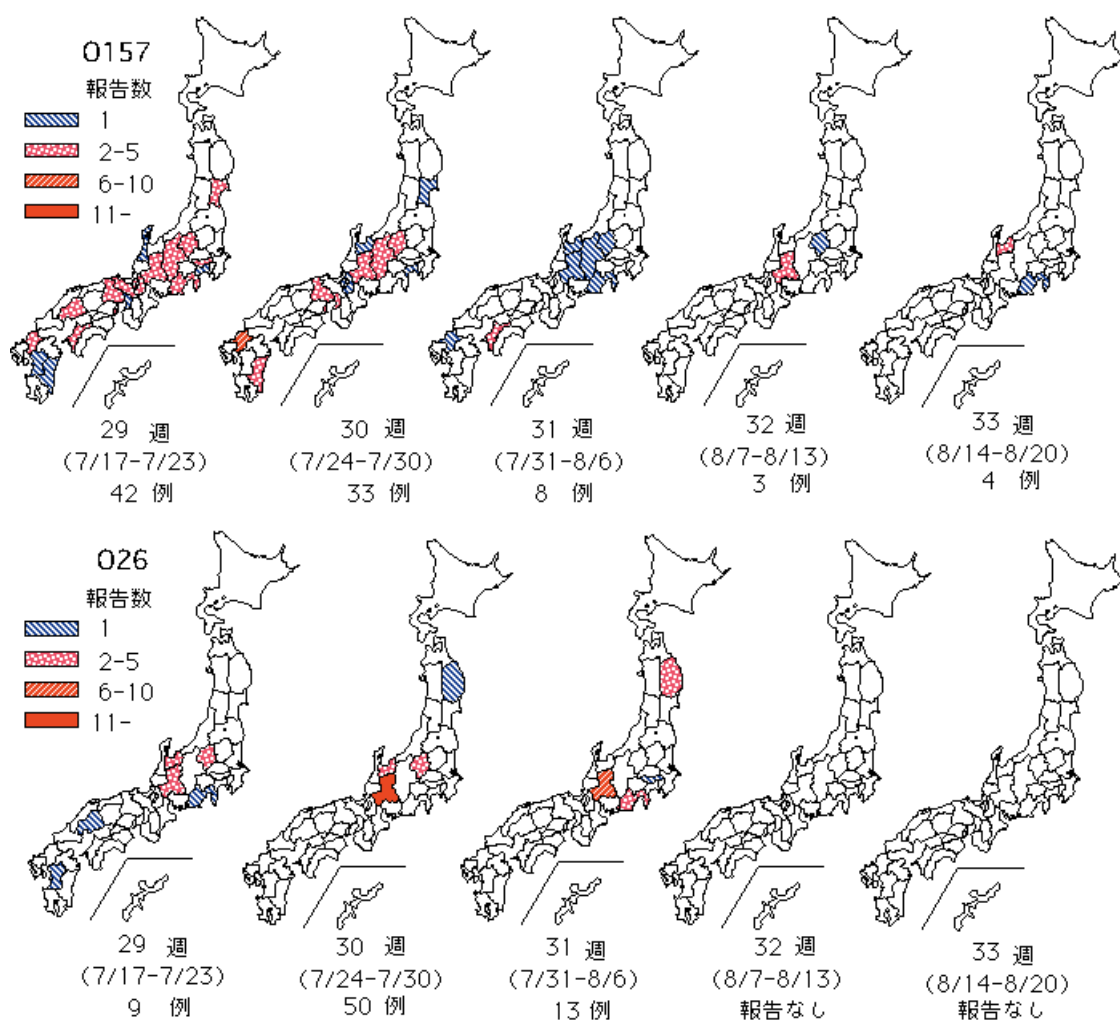
各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。

IASR

Infectious Agents Surveillance Report

都道府県別Vero毒素産生性大腸菌分離報告状況、2006年第29週～第33週

(病原微生物検出情報: 2006年8月24日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した。

IASR

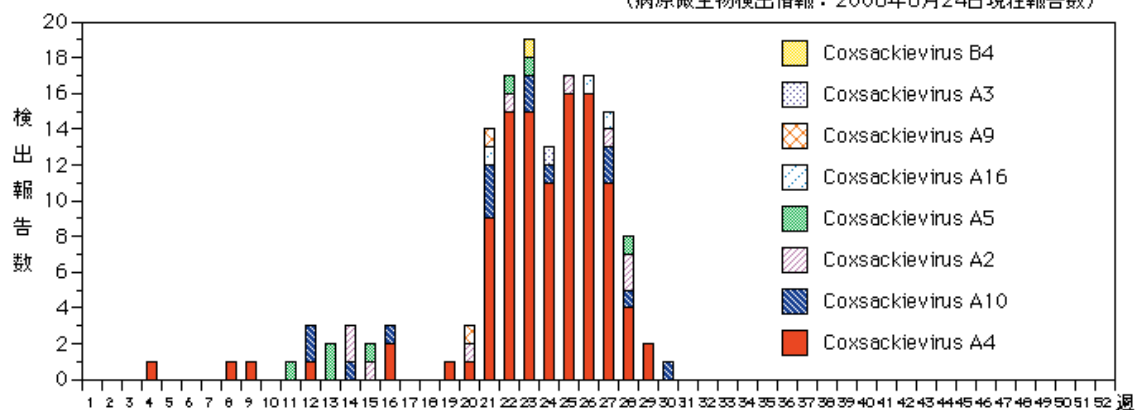
Infectious Agents Surveillance Report

◆ヘルパンギーナ患者から検出されているウイルス 2006年

2006年は第21週以降検出報告が増加しており、A群コクサッキーウイルス(CA)143件、その他36件、計179件の検出が報告されている。CAの型別では、4型107件、10型14件、2型9件、5型7件、16型3件、9型2件、3型1件が報告されている。

週別ヘルパンギーナ患者からの主なコクサッキーウイルス分離・検出報告数、2006年

(病原微生物検出情報: 2006年8月24日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離・検出報告を図に示した。

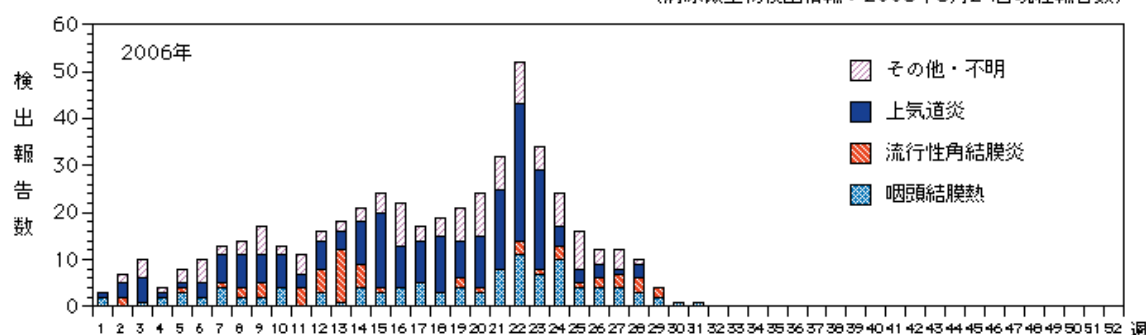
IASR
Infectious Agents Surveillance Report

◆アデノウイルス3型 2006年

2005年後半に続いて2006年もアデノウイルス3型(Ad3)の報告が多く、第22週をピークに増加している。上気道炎208件、咽頭結膜熱107件、流行性角結膜炎56件、下気道炎27件、感染性胃腸炎14件、インフルエンザ10件、不明熱9件など、広い地域から計491件の検出が報告されている。

週別アデノウイルス3型分離・検出報告数、2006年

(病原微生物検出情報: 2006年8月24日現在報告数)

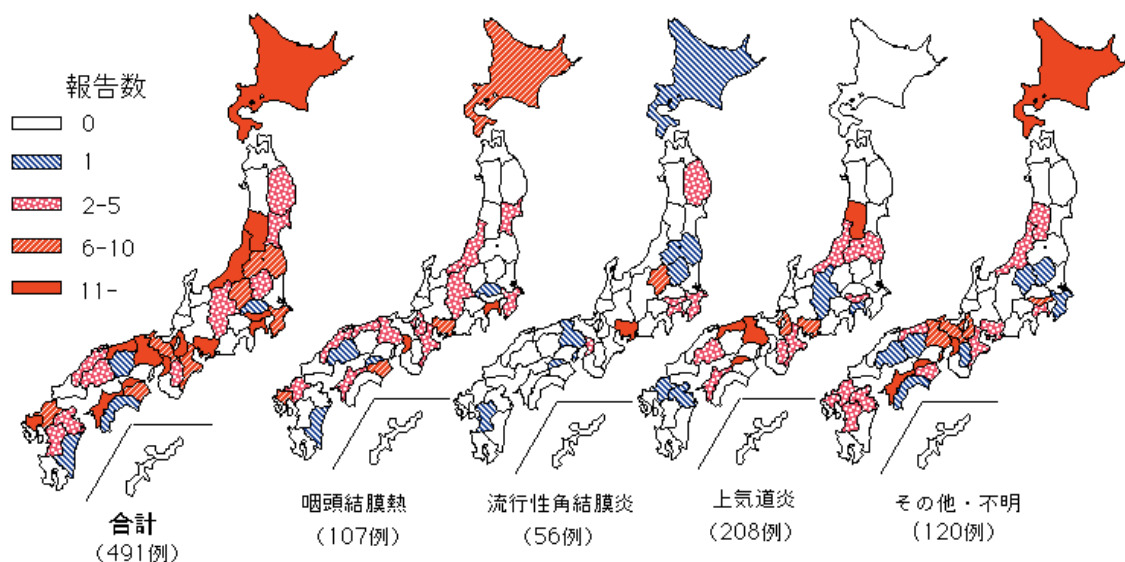


各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した。

IASR
Infectious Agents Surveillance Report

都道府県別診断名別アデノウイルス3型分離・検出報告状況、2006年

(病原微生物検出情報: 2006年8月24日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した。

IASR
Infectious Agents Surveillance Report



◆群馬県内の2つの保育園で発生した腸管出血性大腸菌(O26)感染症の集団感染例

2006年6月に群馬県内A町の保育園で、7月にB町の保育園で腸管出血性大腸菌O26:H11・VT1産生株による集団感染が発生したので報告する。

事例1(A保育園): 6月3日、2歳児(5月25日より水様性下痢便、5月29日より血便を認めたため、医療機関を受診)が腸管出血性大腸菌(O26:H11・VT1産生)感染症であるとの届出が保健所にあり、感染症関連法令にのっとり、接触者調査・消毒等を実施した。6月8日、同園に通園する3歳児(6月3日より水様性下痢便、腹痛、発熱により、医療機関を受診)がO26:H11・VT1産生株による腸管出血性大腸菌感染症であるとの届出があった。同施設に通う2児に同じ血清型および毒素型の腸管出血性大腸菌感染症が発生したため、感染症および食中毒の両面を疑い、対策を講じた。

第1回目の検便を6月12～16日に、全園児(175名)、全職員(23名)、園児家族で心配な者(7名)について、保健所および医療機関で実施したところ、11名の園児からO26:H11・VT1産生株が検出された。職員等は全員陰性であった。保育園は6月15～24日の期間休園し、園内消毒の実施(6月19～20日)、保育園職員対象の衛生講習会(6月22日)を行った。園を再開するにあたり、第2回目の検便を6月19～22日に実施したところ、1名の3歳児(第1回目検便陰性、無症状)から同腸管出血性大腸菌が分離された。給食の保存検体(9検体)および厨房内・施設内のふきとり(9検体)からは、同腸管出血性大腸菌は検出されなかった。本集団発生によって同腸管出血性大腸菌が検出された14名の罹患園児については、8名が有症者(軟便5名、腹痛3名、水様性下痢2名、血便1名、嘔吐1名、発熱1名)、6名が無症状者であった。罹患率は1歳児が22%(4/18)、3歳児が18%(8/45)と高率であった。また、本事例での入院患者は無かった。さらに、罹患園児の家族・接触者の検査結果も陰性であった。なお、6月26日より保育園は再開した。

事例2(B保育園): 7月4日、3歳児(6月28日より下痢便を認めたため、医療機関を受診)が腸管出血性大腸菌(O26:H11・VT1産生)感染症であるとの届出が保健所にあり、感染症関連法令にのっとり、接触者調査・消毒等を実施した。A保育園と同様に原因菌がO26:H11・VT1産生株であること、患者が保育園児であること、6月19日から自設のプールでの水遊びを開始していたこと、および保育園等における疫学調査の結果等から、感染症集団発生を疑い、対策を講じた。

第1回目の検便を7月5～7日に、全園児(139名)、全職員(22名)について実施したところ、23名の園児からO26:H11・VT1産生株が検出された。職員は全員陰性であった。保育園は7月10～17日の期間休園し、園内消毒の実施(7月10～12日)、保育園職員対象の衛生講習会(7月14日)を行った。初発患者を含む24名の罹患園児の家族・接触者検便(79名)を実施したところ、4名(4家族)から同腸管出血性大腸菌が分離された。この4名は、園児の母2名(いずれも軟便の症状あり)、園児の姉1名(腹痛、下痢症状あり)および園児の弟(軟便の症状あり)であった。保育園を再開するにあたり、第2回目の検便を7月14～15日に実施したところ、3名の園児(第1回目検便陰性、無症状)から同腸管出血性大腸菌が分離された。この3名の園児の家族・接触者の検便(13名)を実施したところ、陰性であった。本集団発生によって同腸管出血性大腸菌が検出された26名の罹患園児については、16名が有症者(軟便10名、腹痛6名、水様性下痢6名、発熱2名)で10名が無症状者であった。罹患率は3歳児が47%(18/38)と高率であった。また、本事例での入院患者は無かった。なお、7月18日より保育園は再開した。

分離された病原体の特徴: 事例1および事例2から分離された腸管出血性大腸菌O26:H11・VT1産生株について、薬剤耐性試験およびパルスフィールド・ゲル電気泳動(PFGE)による遺伝子解析を実施した。事例1の分離菌株はアミノベンジルペニシリンに耐性を、事例2ではテトラサイクリンおよびストレプトマイシンに耐性を示した。また、PFGE像においても、事例1および事例2から分離された菌株の遺伝子パターンは異なっていた。

両事例とも、探知は有症患者の検便によってO26:H11・VT1産生株が分離されたことによる医療機関からの届出であった。しかしながら、両事例ともに無症状者が多く、罹患者の多くは検便で本菌が分離されることによって確定診断された者であった。また、有症者であっても症状が軽い者が多く、軟便、腹痛、水様性下痢等であり、医療機関に受診している園児は少なかった。両事例から分離された菌は薬剤耐性やPFGEの遺伝子解析結果から、異なる由来であることが推測された。本発生事例を通して、O26は症状が軽度であるがゆえに、探知が難しく、さらに、検便実施により多くの園児が感染していたことが判明した。また、自分で排泄を訓練する時期である3歳児が高い罹患率であることが、両事例に共通していた。今後、O26による腸管出血性大腸菌感染症については病原性を考慮にいれ、的確な防止策を講ずることが必要であるとともに、園児の排泄時の取り扱い、おむつの取り扱い、および季節時に行われる自設プールの衛生管理等を含む衛生教育を徹底することが、本感染症の予防・防止のうえで重要であると思われる。

伊勢崎保健福祉事務所

原まち子 市毛千鶴子 佐藤好美 栗原修一

前橋保健福祉事務所 長井二郎

藤岡保健福祉事務所

立石孝枝 白石直美 後藤清乃 湯本二三男 轟 公之 早乙女千恵子

高崎保健福祉事務所 福田久美子

群馬県衛生環境研究所

高原力也 塩原正枝 池田美由紀 黒澤 肇 森田幸雄 加藤政彦

(IASR 2006年9月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)

◆3つの高校における腸管出血性大腸菌O157の集団感染事例ー福岡市

2006年6月、福岡市内の3つの高校(A、BおよびC校)において腸管出血性大腸菌による集団感染が発生したので、その概要を報告する。

2006年6月27日、A高校から城南区保健福祉センターに、腹痛、下痢症状を呈した生徒が複数名みられるとの情報が寄せられ、同日医療機関より、A高校の生徒2名からO157が検出されたとの届出があった。また翌28日には、B高校から中央区保健福祉センターに、腹痛、下痢症状を呈した生徒が複数名みられるとの情報が寄せられた。

保健福祉センターの調査により、A、B両校の有症者は、A校の1名を除くと、県外で開催された球技大会(6月16～19日)に参加した部員および随行者であり、両校の部員の多くは寮生であった。両校ともに部員および随行者の発症日の大半は、6月22～23日に集中していた。調査を進めていくと、A、B両校のほかに、C校も同球技大会に参加していたことが判明したが、C校には発症者がみられなかった。

3校の宿泊施設は同じDホテルであったが、A、B両校の部員の多くが寮で生活しており、寮内での食中毒あるいは人→人感染の可能性も考えられたため、球技大会に参加した3校の部員および随行者に加えて、A、B両校の寮生の検便と寮の検食を含めた施設調査を実施した。

細菌検査の結果、O157(VT2)が3校の14名(A校が7名、B校が6名、C校が1名; A校の1名を除く13名は全員が大会参加者)から検出されたが、検食や施設のふきとり検体からは検出されなかった。なお、Dホテルを所管する保健所の調査では、従業員1名からO157(VT2)が検出された。

患者由来14株および従業員由来1株の計15株について、パルスフィールド・ゲル電気泳動(PFGE)解析を実施した。9株(A高校の6名、B高校の3名)は同一のPFGEパターン(以下パターン1)を示し、6株(A高校の1名、B高校の3名、C高校の1名、従業員1名)は別の同一パターン(以下パターン2)を示した。

球技大会に参加した部員および随行者の共通食は、Dホテルの食事だけであった。しかし、パターン2を示したA校の有症者1名(6月27日発症)は寮生ではあったが、別の運動クラブに所属しており、球技大会参加者ではなかった。また、パターン1を示したB校の有症者1名(6月25日発症)は、球技大会に参加したが日帰りしたため、Dホテルを利用していなかった。

上記2名の有症者を除いた場合、流行曲線と行動調査の結果から単一曝露(食中毒)であることが強く示唆されたが、感染源や汚染源を特定することはできなかった。B校で分離されたO157はパターン1および2の2種類であったが、A校で分離されたO157は上記1名を除くと、すべてパターン1であった。今回の検査では、A校部員からパターン2のO157を分離できなかった可能性が考えられ、上記2名の発症については、それぞれの寮内における人→人感染による可能性が推定された。

福岡市保健環境研究所

瓜生佳世 真子俊博 川内良介 馬場 愛 江渕寿美 樋脇 弘 吉田真一

(IASR 2006年9月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



感染症の話

◆ウエルシュ菌感染症

ウエルシュ菌(*Clostridium perfringens*)は、ヒトや動物の大腸内常在菌であり、下水、河川、海、耕地などの土壤に広く分布する。ヒトの感染症としては食中毒の他に、ガス壊疽、化膿性感染症、敗血症等が知られているが、本稿では最も多発するウエルシュ菌食中毒を中心に記載する。

ウエルシュ菌食中毒は、エンテロトキシン産生性ウエルシュ菌(下痢原性ウエルシュ菌)が大量に増殖した食品を喫食することにより、本菌が腸管内で増殖して、芽胞を形成する際に産生・放出するエンテロトキシンにより発症する感染型食中毒である。

●疫学

わが国におけるウエルシュ菌食中毒事件数は年間20～40件(平均28件)程度で、それほど多いものではない。しかし、1事件あたりの平均患者数は83.7名で、他の細菌性食中毒に比べて圧倒的に多く、大規模事例の多いことが分かる(表)。本菌による食中毒の発生場所は、大量の食事を取り扱う給食施設や仕出し弁当屋、旅館、飲食店等である。主な原因食品には、カレー、スープ、肉団子、チャーシュー、野菜の煮物(特に肉の入ったもの)等があり、一般的には以下の様な特徴が認められる。

- 1)多くは食肉、あるいは魚介類等を使った調理品である。これは、食肉や魚介類のウエルシュ菌汚染率が高いためである。さらに、食肉にはグルタチオン等の還元物質が豊富に含まれているので、調理食品内は嫌気状態になり易く、ウエルシュ菌の発育に適する。
- 2)原因食品は大量に加熱調理された後、そのまま数時間から一夜室温に放置されていることが多い。加熱調理された食品中では、共存細菌の多くが死滅するが、熱抵抗性が強い下痢原性ウエルシュ菌芽胞は生存する。そして、再加熱により芽胞の発芽が促進され、同時に食品内に含まれる酸素が追い出されて、ウエルシュ菌の発育に好条件が与えられる。また、ウエルシュ菌の至適発育温度は43～47℃と他の細菌よりも高く、増殖速度も速いため(分裂時間は45℃で約10分間と短い)、加熱調理食品が徐々に冷却していく間にウエルシュ菌は急速に増殖する。

一方、食中毒等の疫学解析に用いられる細菌の疫学マーカーとしては血清型が汎用され、我が国ではHobbsの型別血清(1～17型)が市販されている。しかし、Hobbsの血清型に一致する菌株でもエンテロトキシン非産生株も認められ、血清型と病原性は必ずしも一致しない。東京都健康安全研究センターではHobbsの血清型に一致しない菌株の血清型別を試み、TWの血清型(現在1～70型)を確立し、Hobbs型と併用して検査を行っている。都内で発生したウエルシュ菌食中毒80件(1963～2005年)のうち、原因菌の血清型はHobbs型37件、TW型が35件、

表. 細菌性食中毒1事件あたりの患者数
(1995～2004年)

原因菌	患者数
ウエルシュ菌	83.7
サルモネラ	19.1
黄色ブドウ球菌	36.6
ボツリヌス	3.6
腸炎ビブリオ	13.6
病原大腸菌	25.2
セレウス	22.3
エルシニア・エンテロコリチカ	6.2
カンピロバクター	5.4
ナグビブリオ	3.9
その他	10.1

(厚生労働省食中毒統計)

Hobbs型とTW型の混合が8件であり、主な血清型はHobbs型1、4、3、5及びTW型6であった。原因菌の血清型は、従来は大量調理で生残した1血清型菌による食中毒がほとんどであったが、最近、複数の血清型菌による食中毒が増加している傾向が認められる。これは、近年仕出し弁当などの製造過程が変化していることが原因と推定される。

●病原体

ウエルシュ菌は、偏性嫌気性の芽胞形成菌であるクロストリジウム(*Clostridium*)属の一菌種で、長さ3～9 μm 、幅0.9～1.3 μm で、非運動性、グラム陽性の大桿菌である(写真)。

本菌は産生する主要毒素(α 、 β 、 ϵ 、 ι)の種類によって、A、B、C、D、Eの5つに分類される。食中毒やガス壊疽の原因になるウエルシュ菌は、ほとんどがA型菌である。また、パプアニューギニア、ドイツ、アメリカではC型菌による壊死性腸炎の報告がある。

食中毒の原因となるA型ウエルシュ菌は一般常在ウエルシュ菌と異なり、下痢原因子であるエンテロトキシンを産生し、大部分の菌株は耐熱性芽胞を形成する。

しかし、レシチナーゼ非産生菌あるいは易熱性芽胞形成菌による食中毒事例も稀に認められ、筆者らは、新型エンテロトキシン産生菌によるウエルシュ菌食中毒事例を明らかにしている。

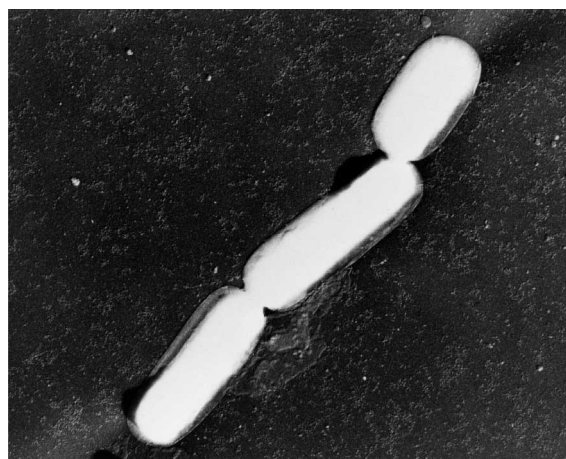


写真. ウエルシュ菌の電子顕微鏡像

●臨床症状

ウエルシュ菌食中毒の潜伏時間は通常6～18時間、平均10時間で、喫食後24時間以降に発病することはほとんどない。主要症状は腹痛と下痢である。下痢の回数は1日1～3回程度のものが多く、主に水様便と軟便である。腹部膨満感が生じることもあるが、嘔吐や発熱などの症状はきわめて少なく、症状は一般的に軽くて1～2日で回復する。

なお最近、食中毒とは異なる感染経路で発生するウエルシュ菌集団下痢症も報告されている。高齢者福祉施設で発生する事例が多く、院内感染と認められた例もある。これらの事例では、症状は軽度の下痢、患者発生は持続的であり、食中毒と異なり、患者発生の鋭いピークが認められないのが特徴である。患者周辺の環境(ベットの柵、カテーテル、トイレの床、便器等)から、患者と同一のエンテロトキシン産生性ウエルシュ菌が分離されることも多い。

また、特に高齢者福祉施設でのノロウイルス集団感染症事例の際、ノロウイルスと共に同一血清型のエンテロトキシン産生性ウエルシュ菌が多数分離されることがある。このような事例の場合、ノロウイルスに加え、ウエルシュ菌も下痢症の原因であったか否か不明であるが、今後事例を集めて検討する必要がある。

その他、ウエルシュ菌が産生する溶血毒のために急死する敗血症例も報告されている。その実態は明らかではないが突然死の例もあり、注意を要する。

●病原診断

食中毒の最も確実な診断は、患者糞便や推定原因食品等からエンテロトキシン産生性のウエルシュ菌を分離することである。健康人のエンテロトキシン産生菌の保菌率は約1%である。患者糞便の検査では、非病原性の常在ウエルシュ菌との区別が重要であり、食中毒事例の検査では次の点に留意して実施する。

- 1) 集団発生例では、発病初期の患者糞便から、同一血清型のウエルシュ菌が高頻度に検出されること。
- 2) 原因食品の残品から、患者由来ウエルシュ菌と同一血清型の菌が検出されること。
- 3) 患者や原因食品から分離されたウエルシュ菌は、エンテロトキシンを産生すること。
- 4) 発病初期の患者糞便からエンテロトキシンが検出されること。

エンテロトキシンの検査は、RPLA法を利用した市販試薬(PET-RPLA、デンカ生研)またはPCR法で行うのが一般的である。

●治療・予防

治療としては対症療法が主である。食中毒は、ウエルシュ菌が1g当たり10万個以上に増殖した食品を喫食することで発生することから、予防の要点は食品中での菌の増殖防止である。すなわち、加熱調理食品は小分けするなどして急速に冷却し、低温に保存する。保存後に喫食する場合は十分な再加熱を行う。大量調理時に発生することの多い食中毒であり、前日調理、室温放置は避けるべきである。近年の大規模調理の増加、流通形態の変化、食肉を中心とする食生活への変化等により、本食中毒の増加が危惧されるので、その予防に対する再認識が望まれる。

●食品衛生法における取り扱い

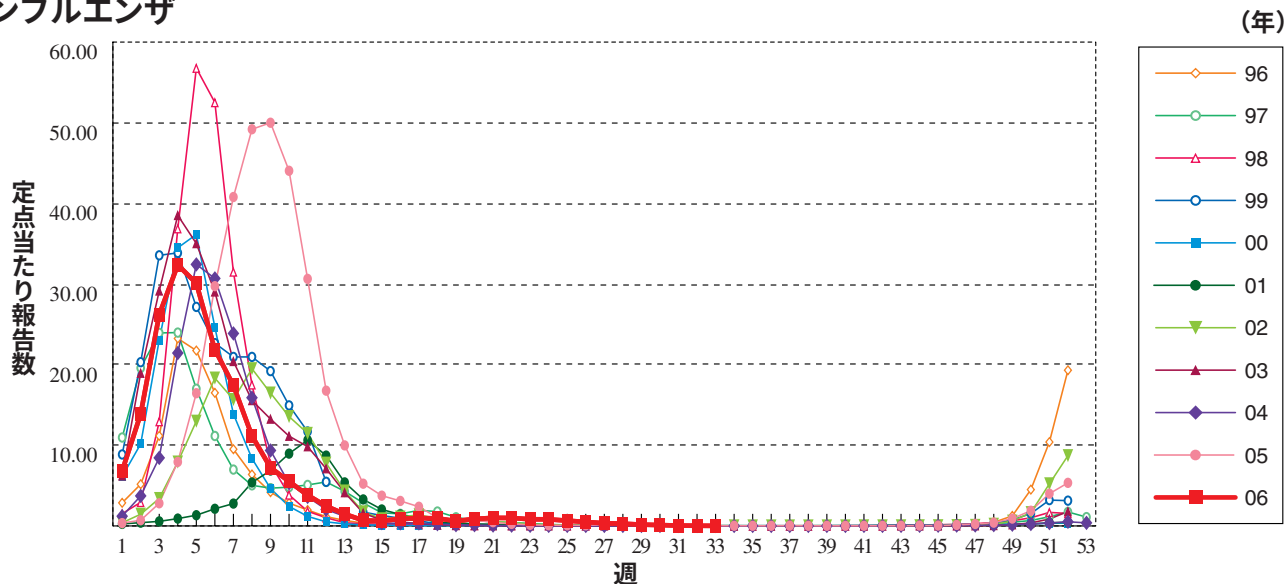
食中毒が疑われる場合は、24時間以内に最寄りの保健所に届け出る。

(東京都健康安全研究センター・微生物部 門間千枝 柳川義勢)

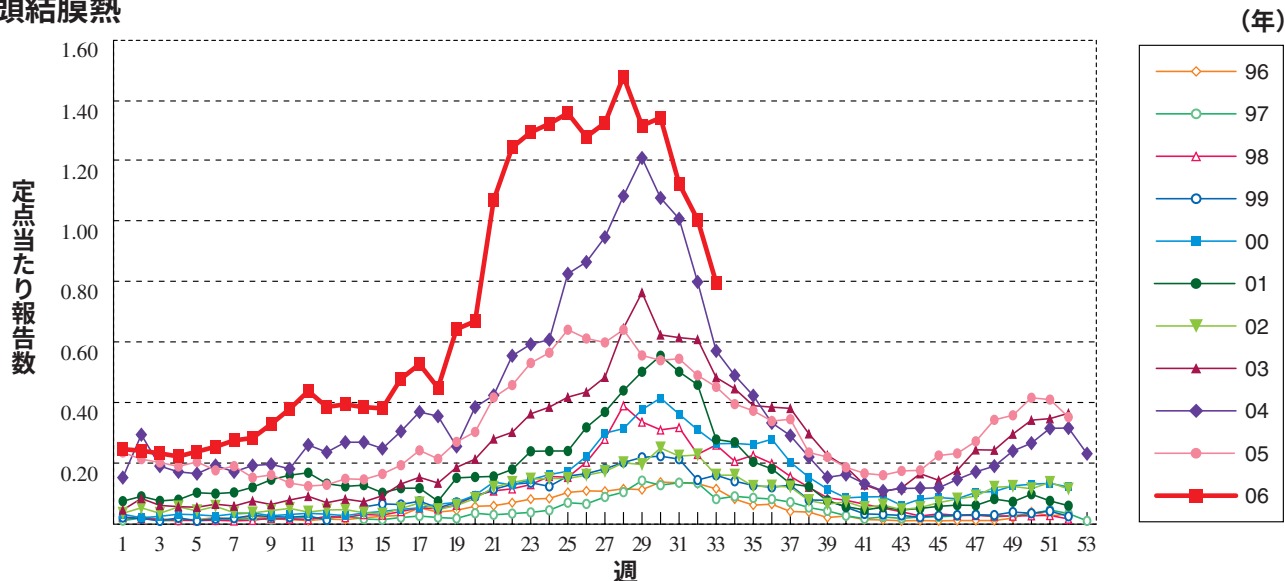


グラフ総覧(33週)

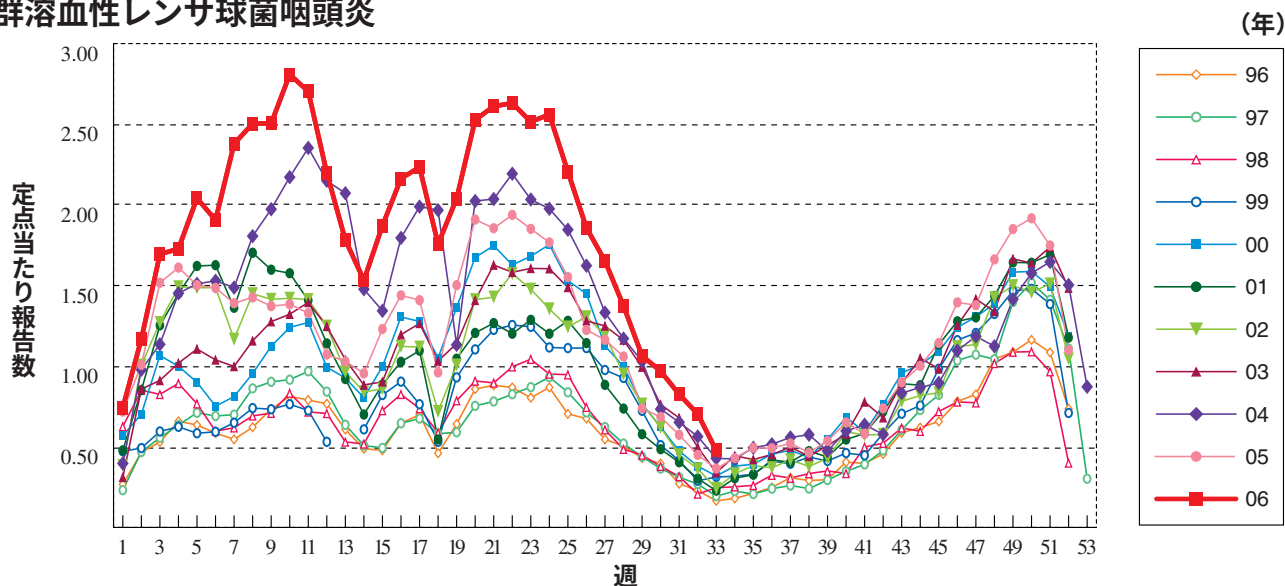
インフルエンザ



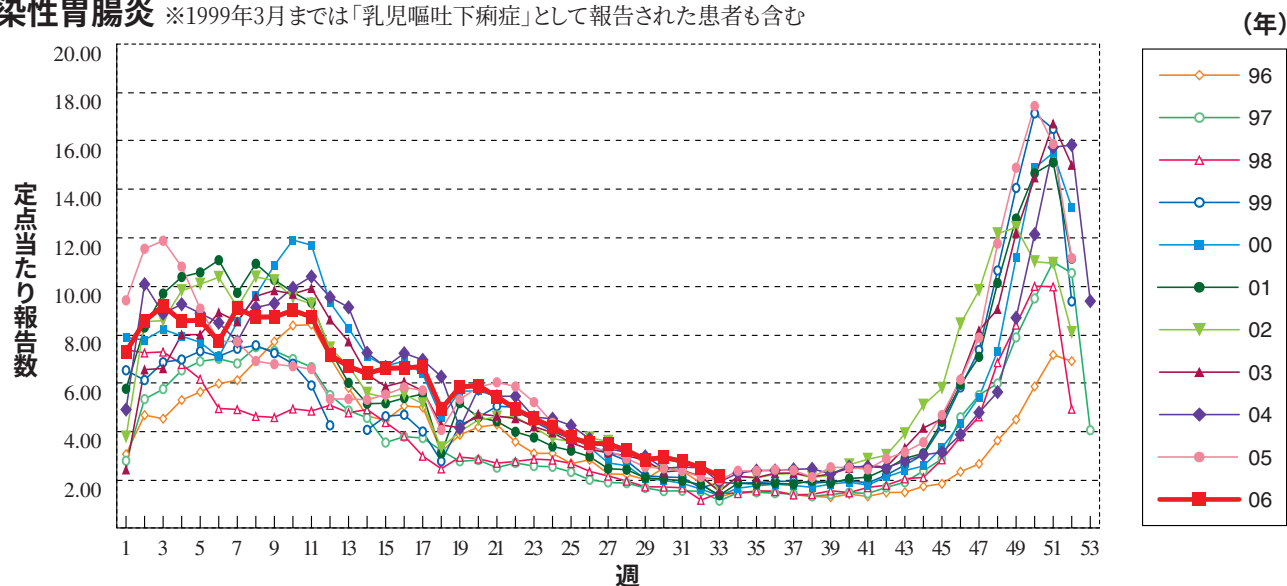
咽頭結膜熱



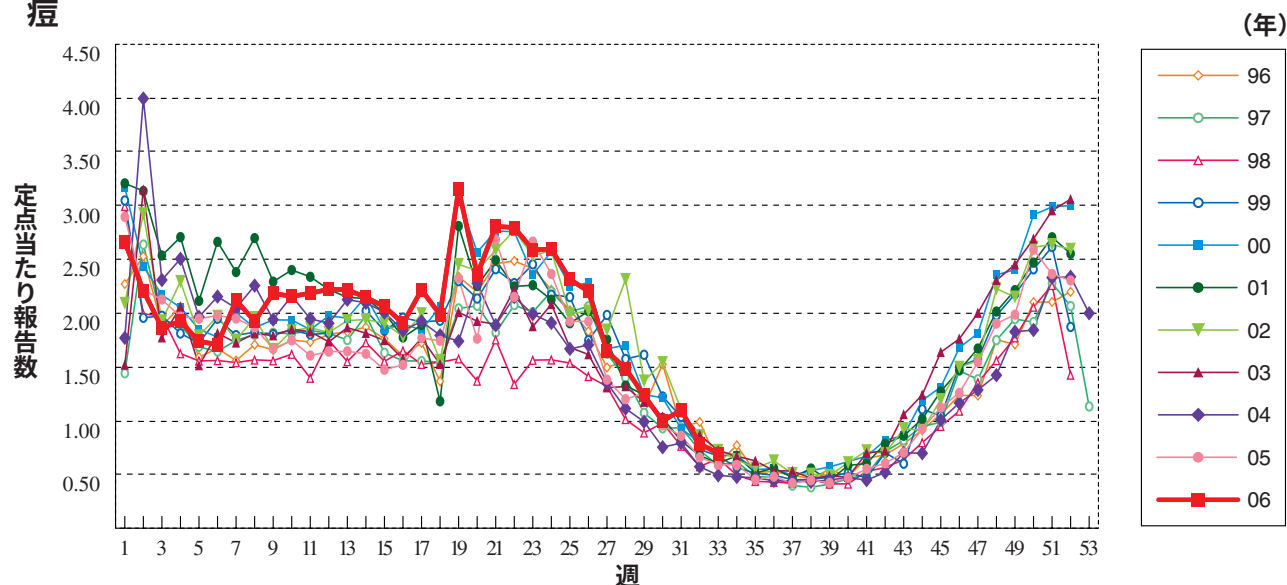
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



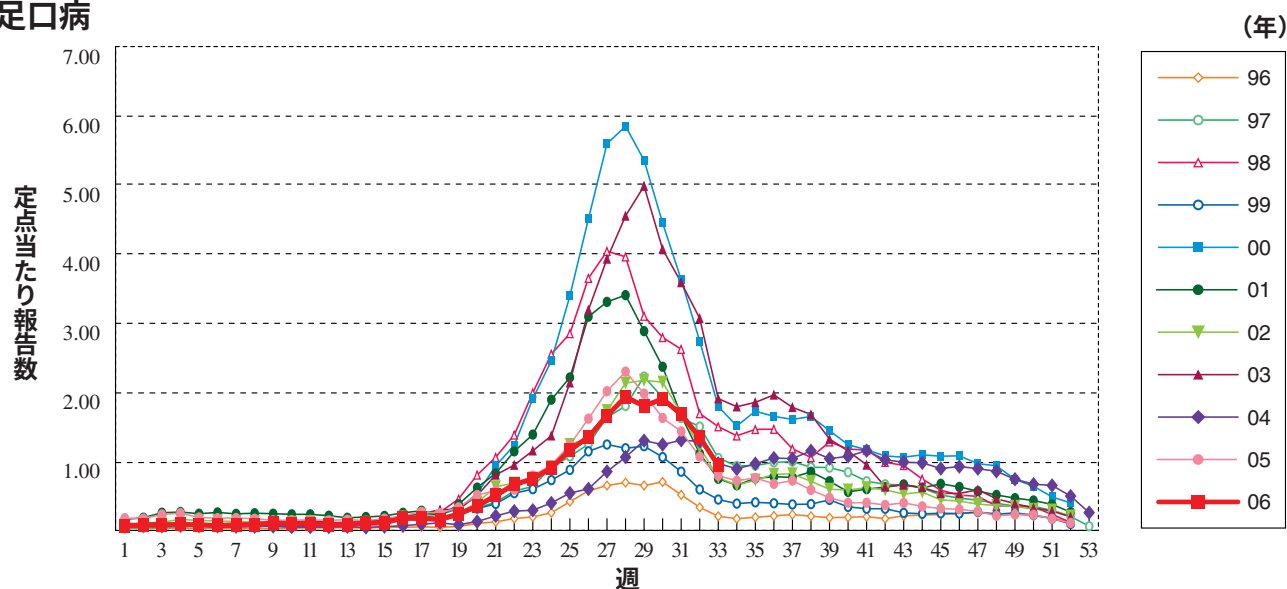
感染性胃腸炎 ※1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



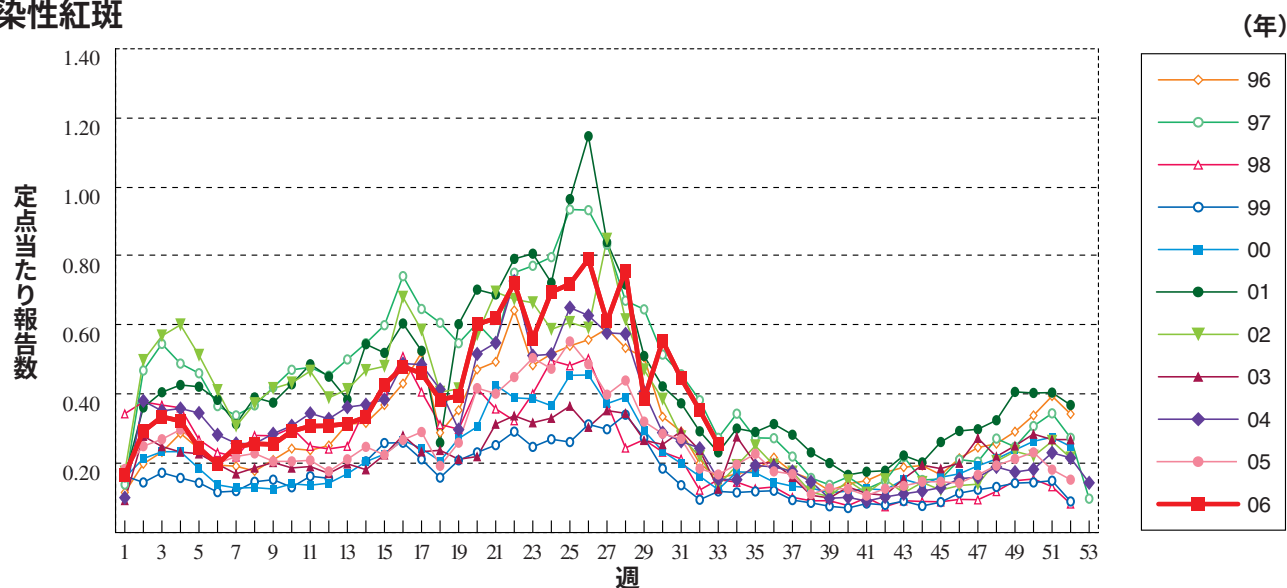
水痘



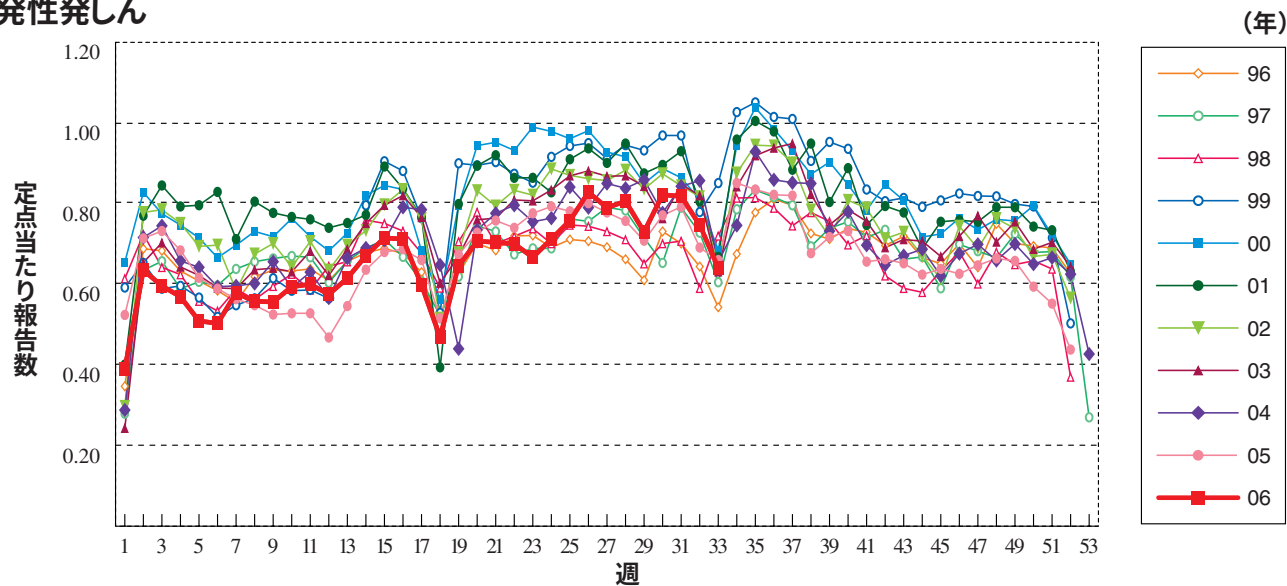
手足口病



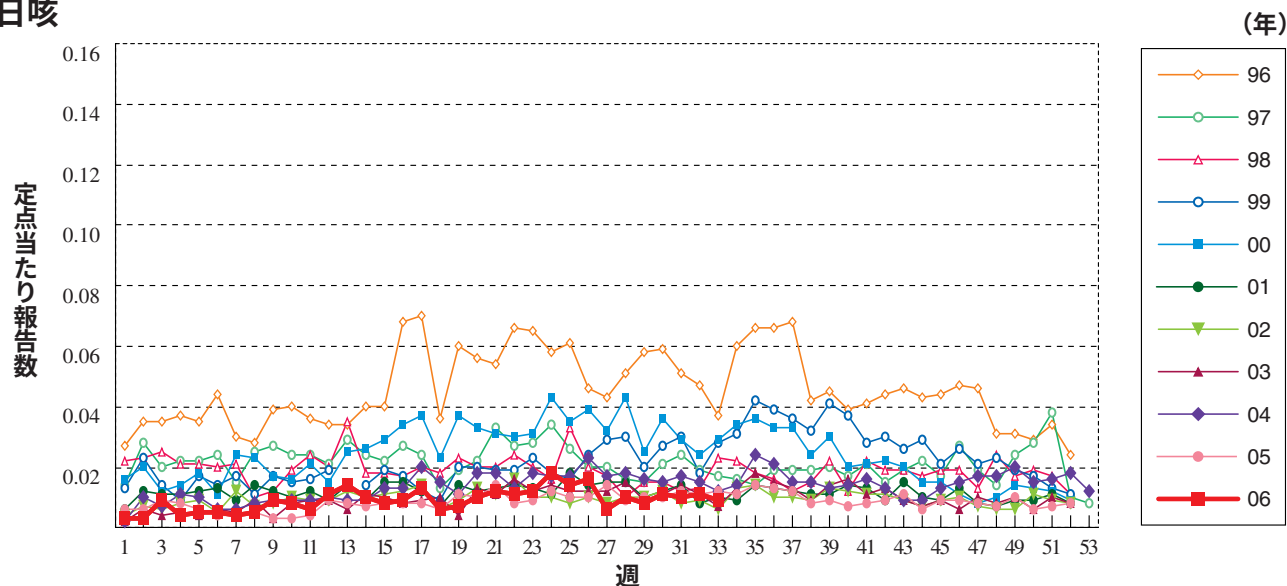
伝染性紅斑



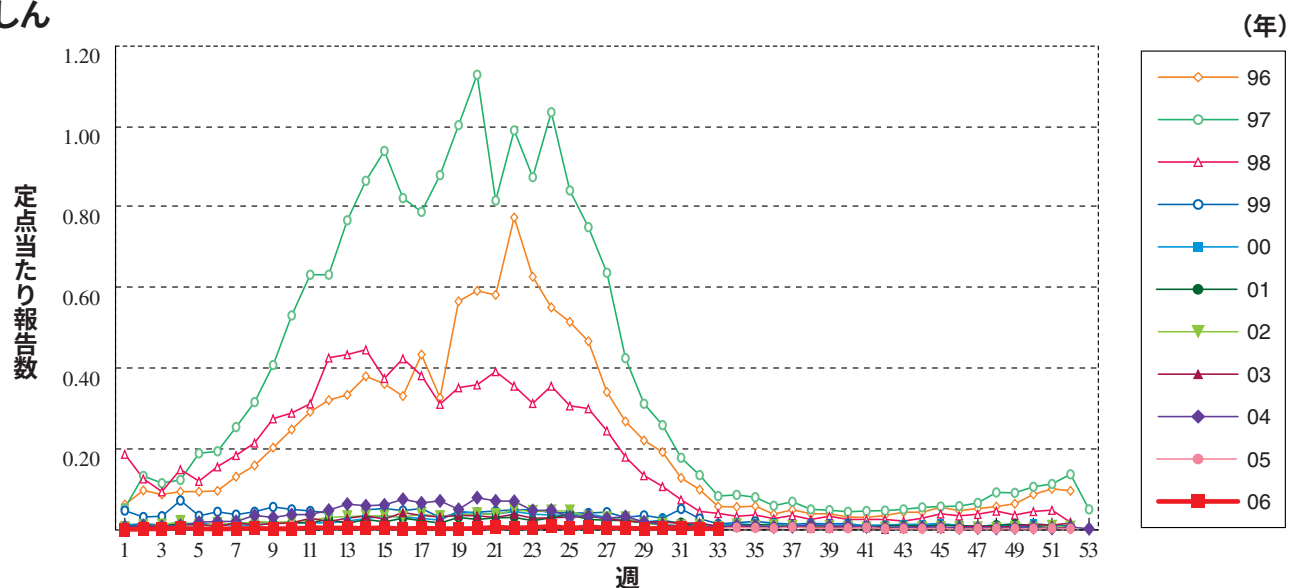
突発性発しん



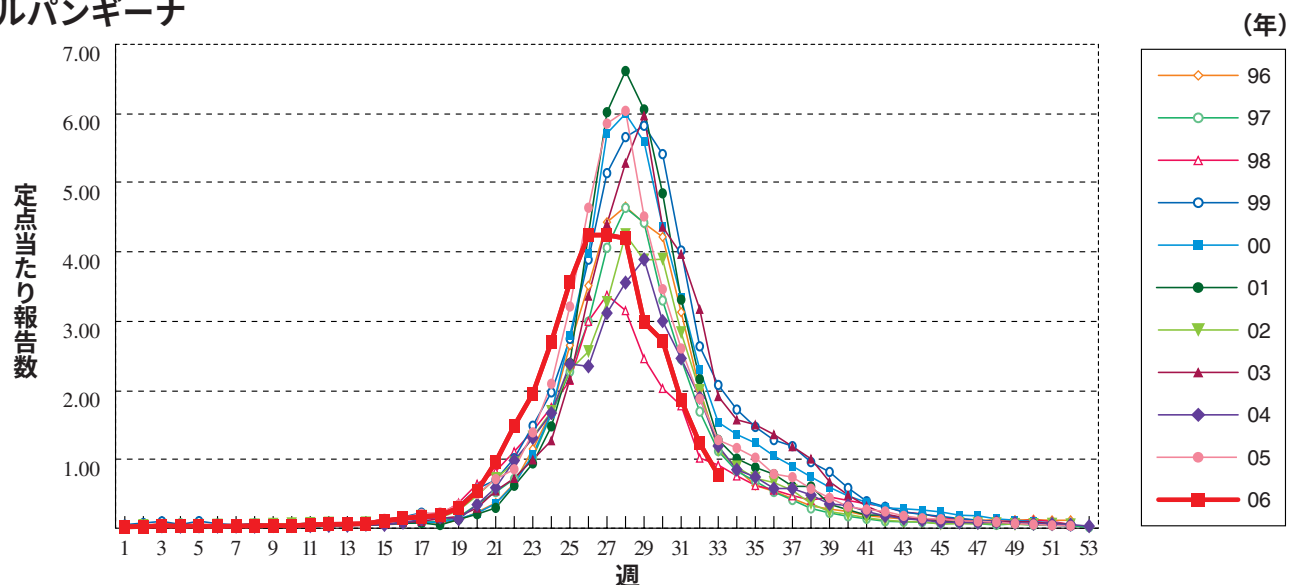
百日咳



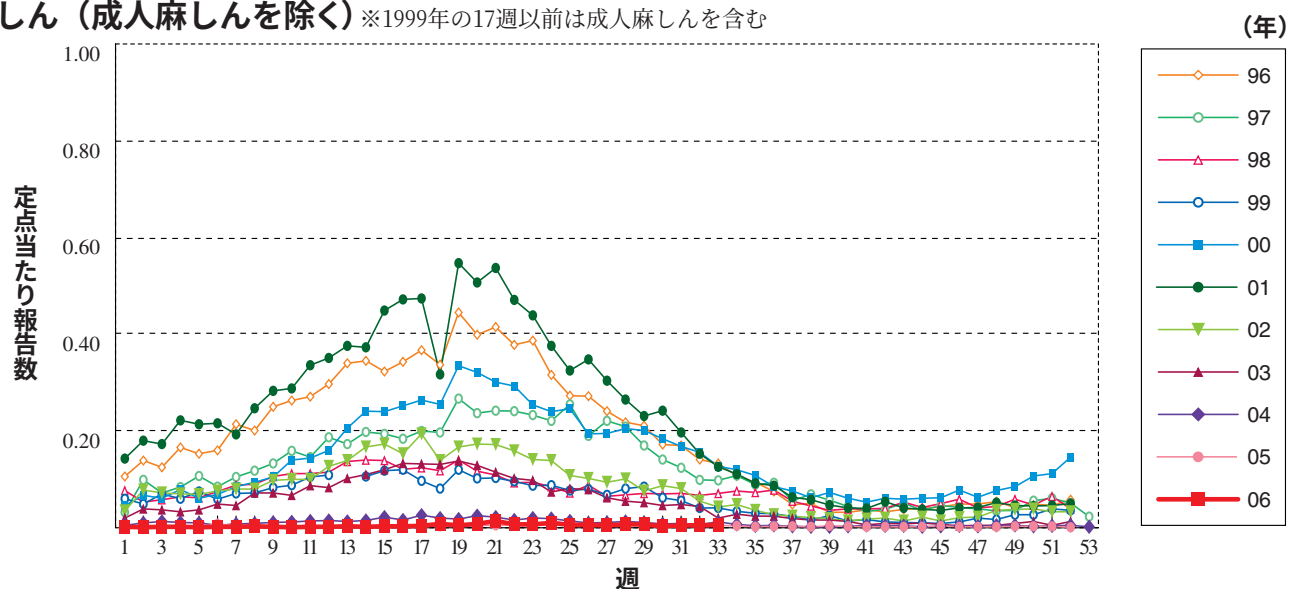
風しん



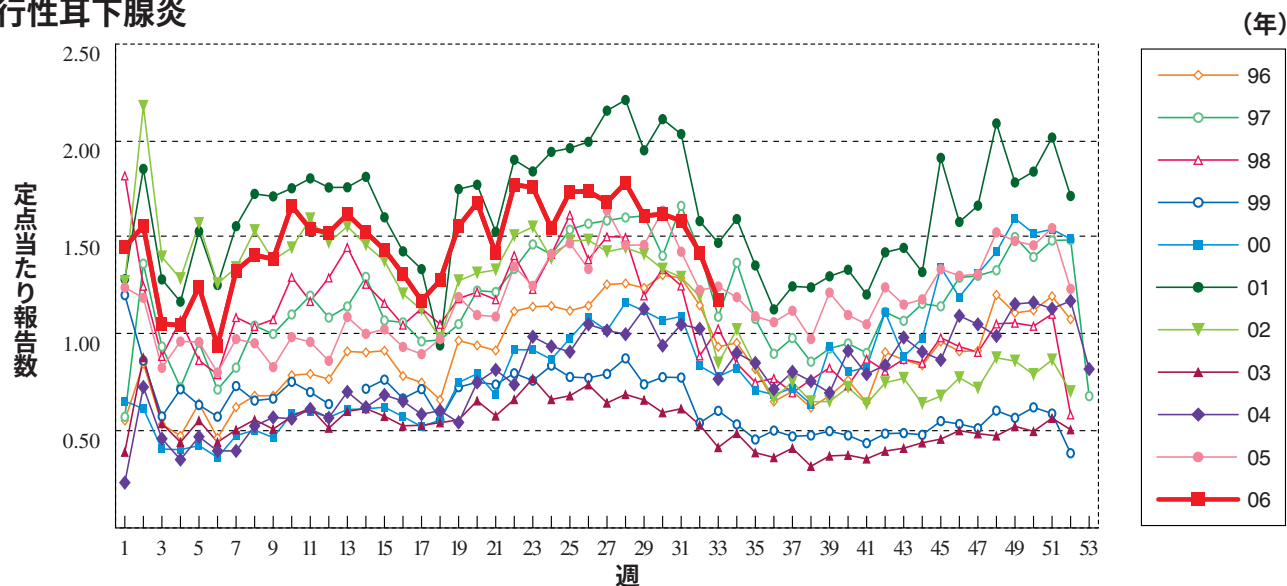
ヘルパンギーナ



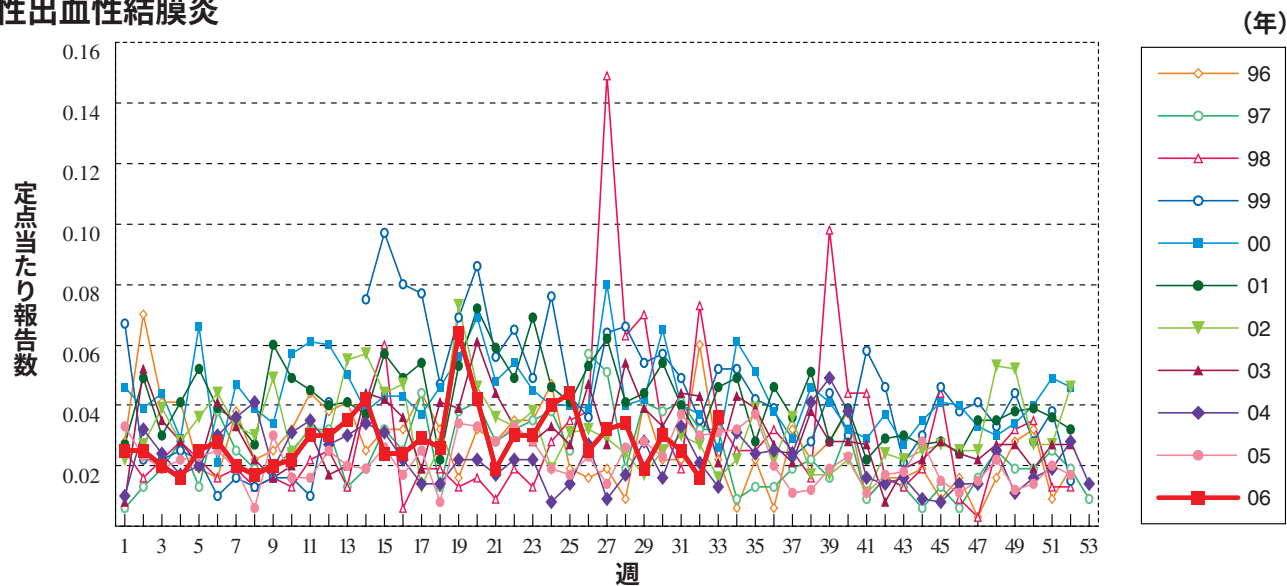
麻しん (成人麻しんを除く) ※1999年の17週以前は成人麻しんを含む



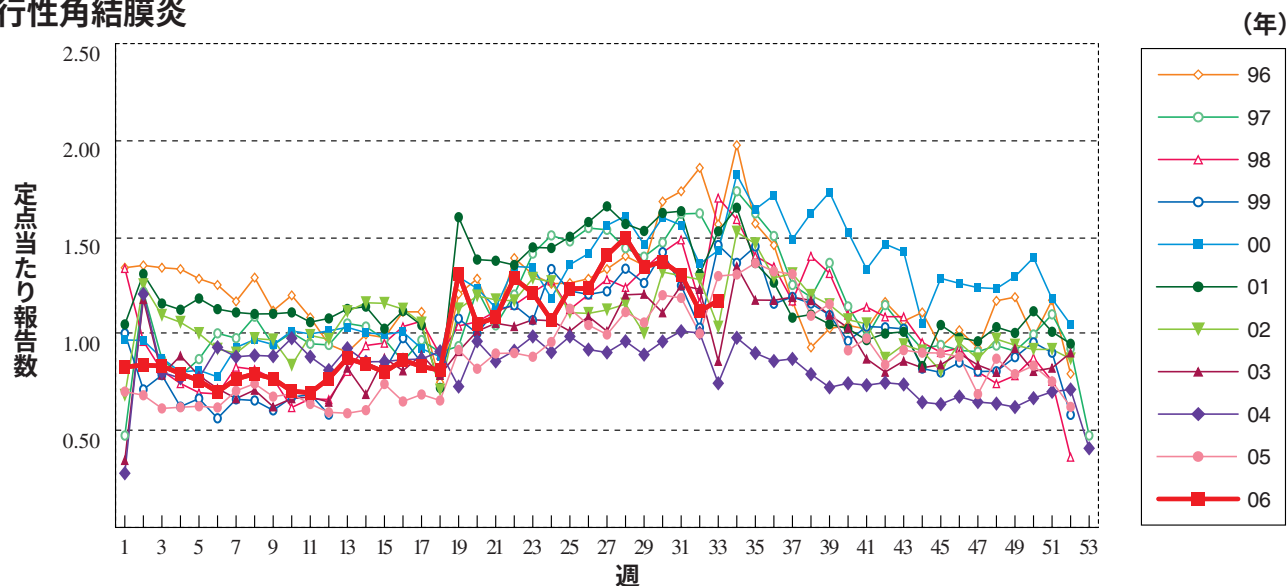
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

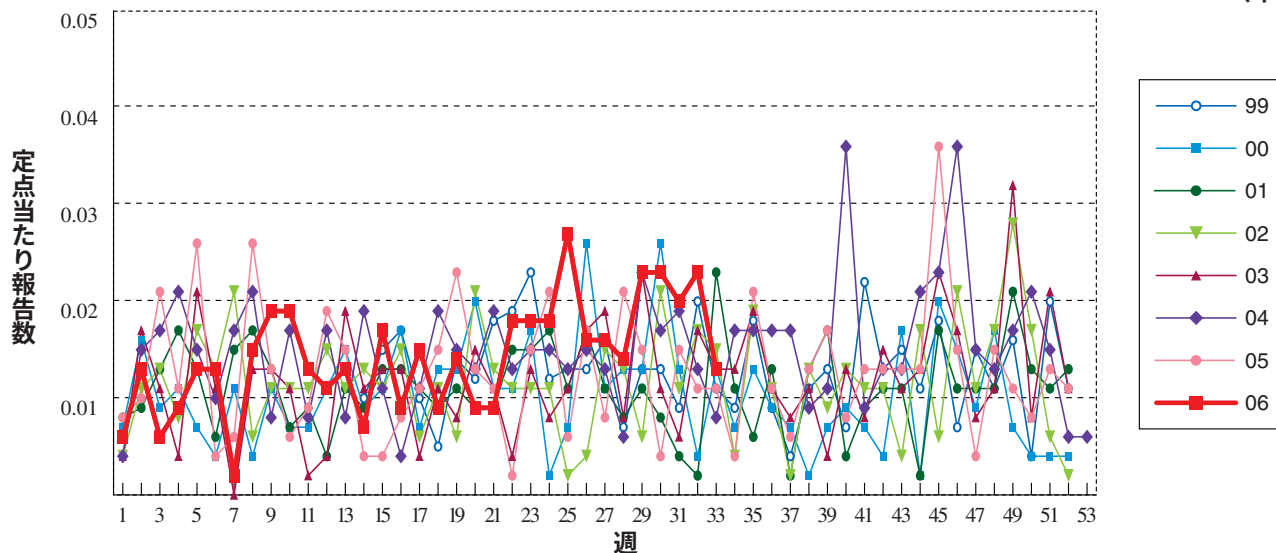


流行性角結膜炎



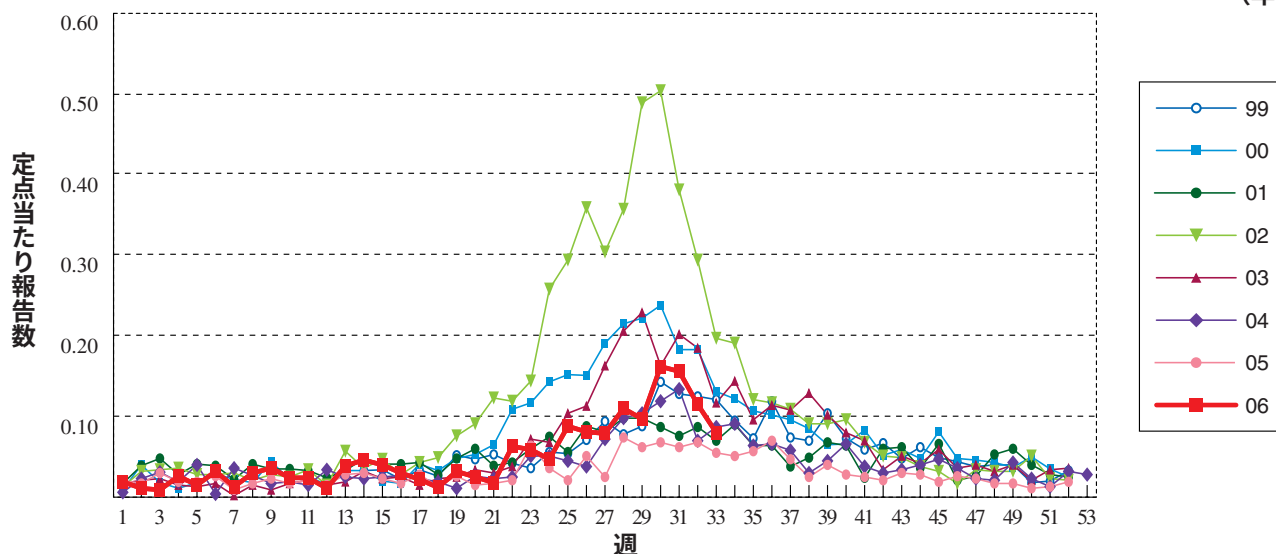
細菌性髄膜炎

(年)



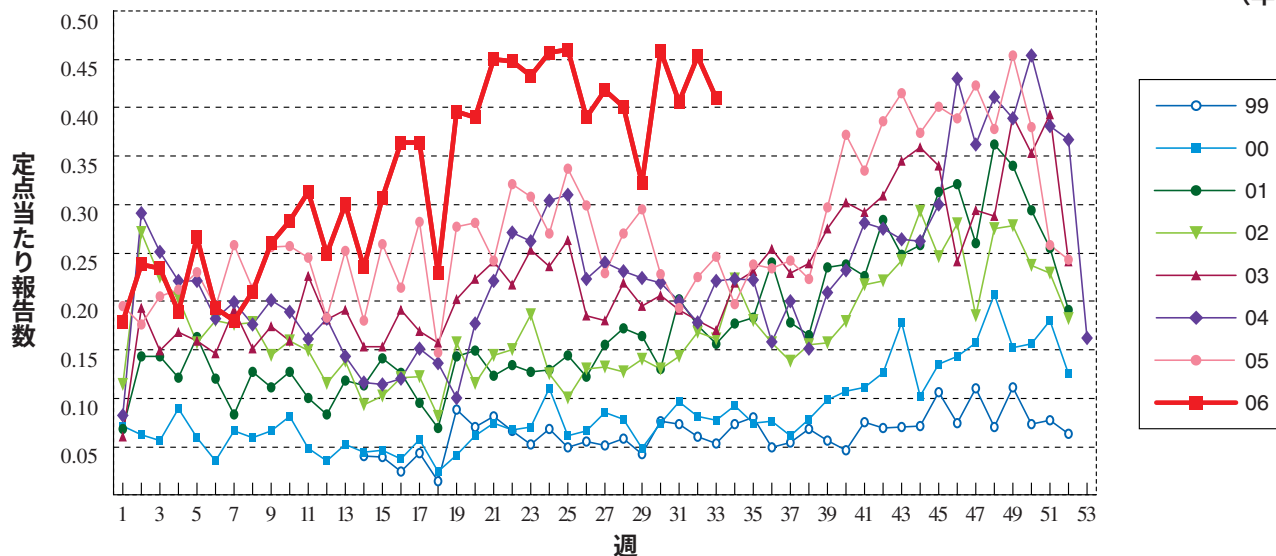
無菌性髄膜炎

(年)

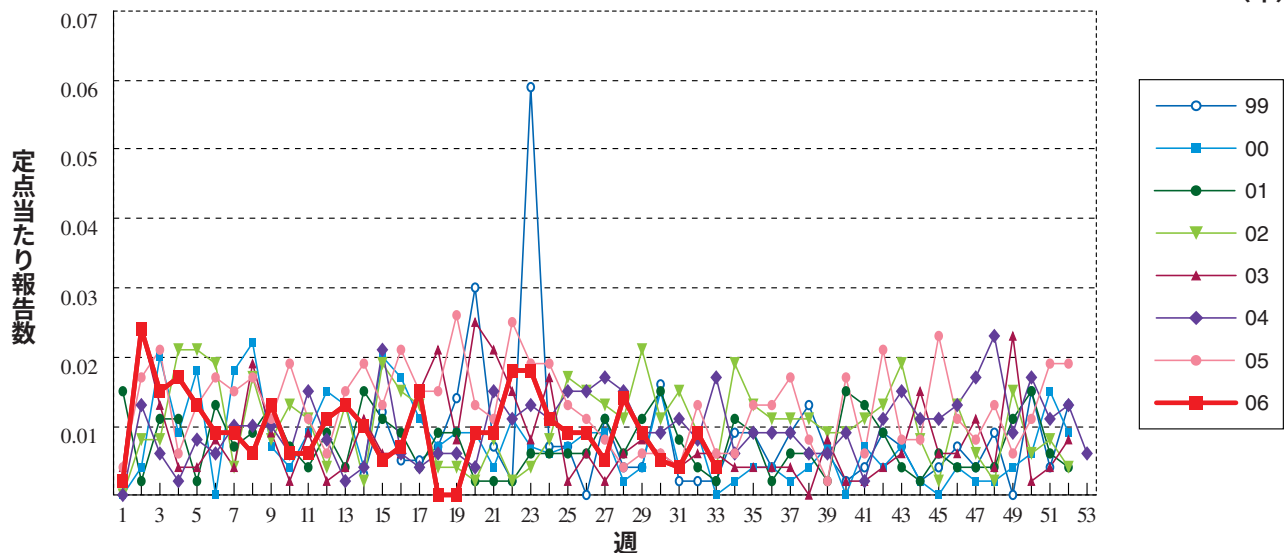


マイコプラズマ肺炎

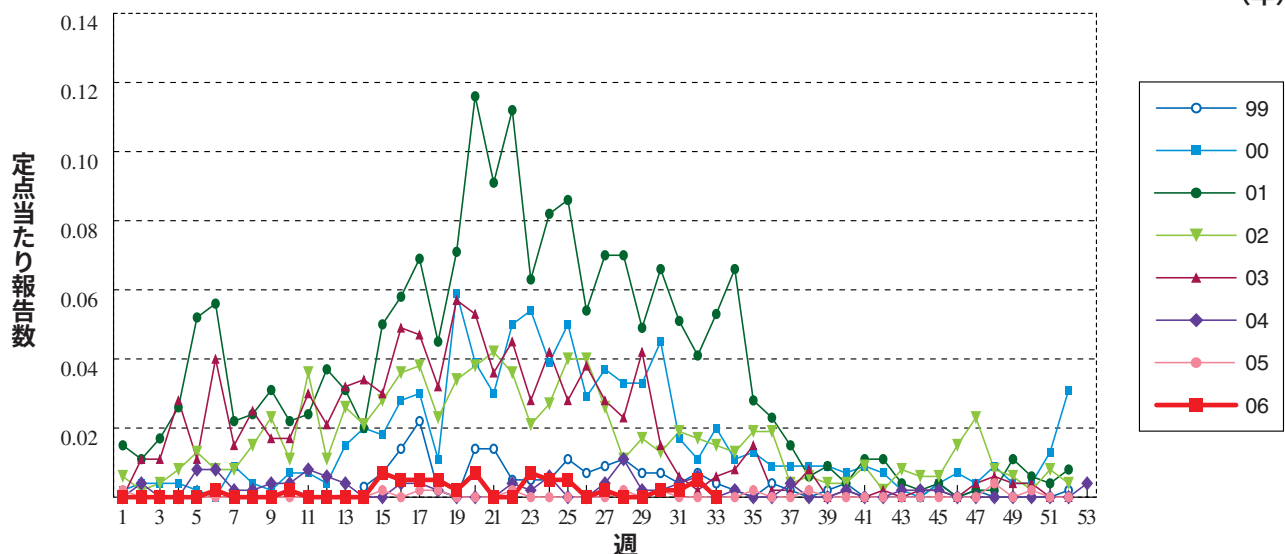
(年)



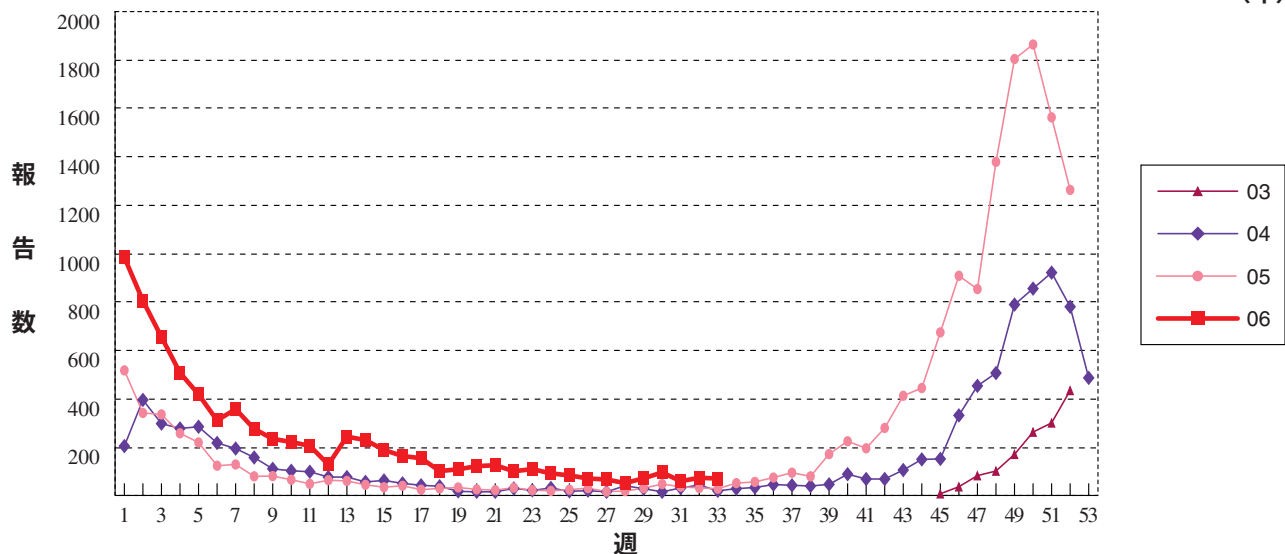
クラミジア肺炎（オウム病を除く）



成人麻疹



RSウイルス感染症 ※定点当たり報告数ではなく、報告数を示しています。

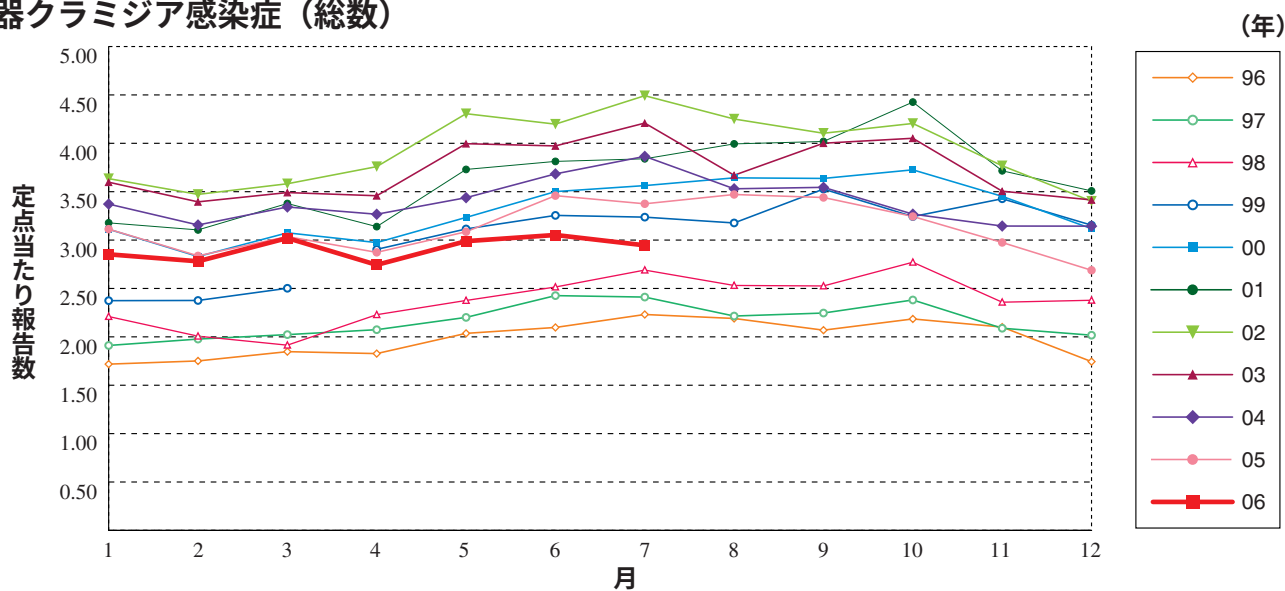




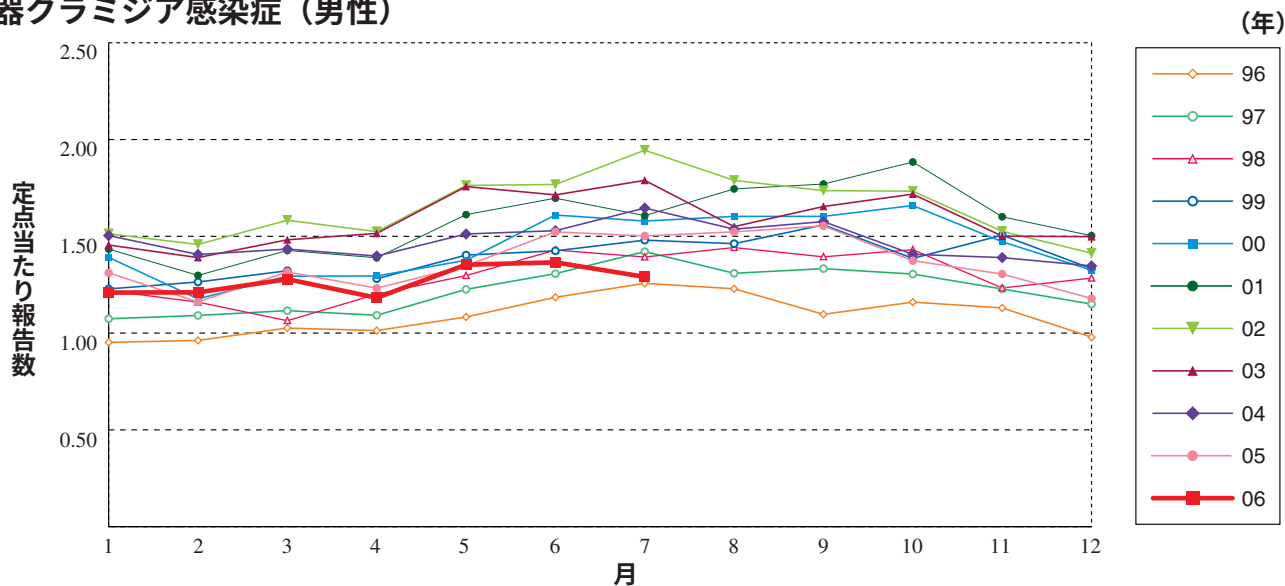
グラフ総覧(7月)

注) 1999年4月以降は定点設定が変更されております。

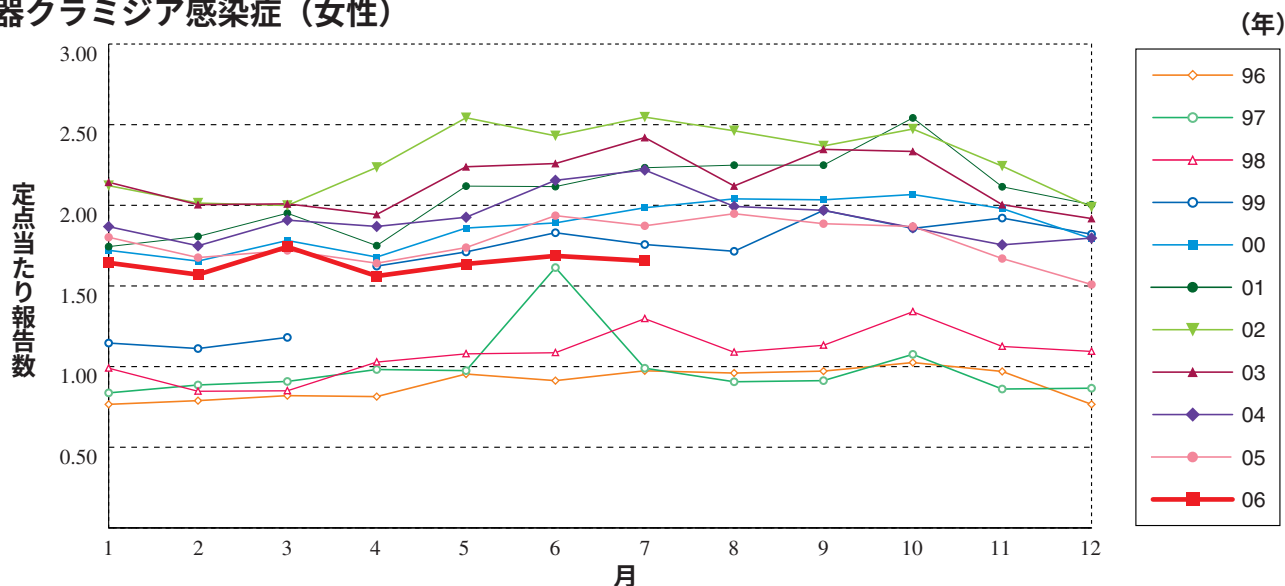
性器クラミジア感染症 (総数)



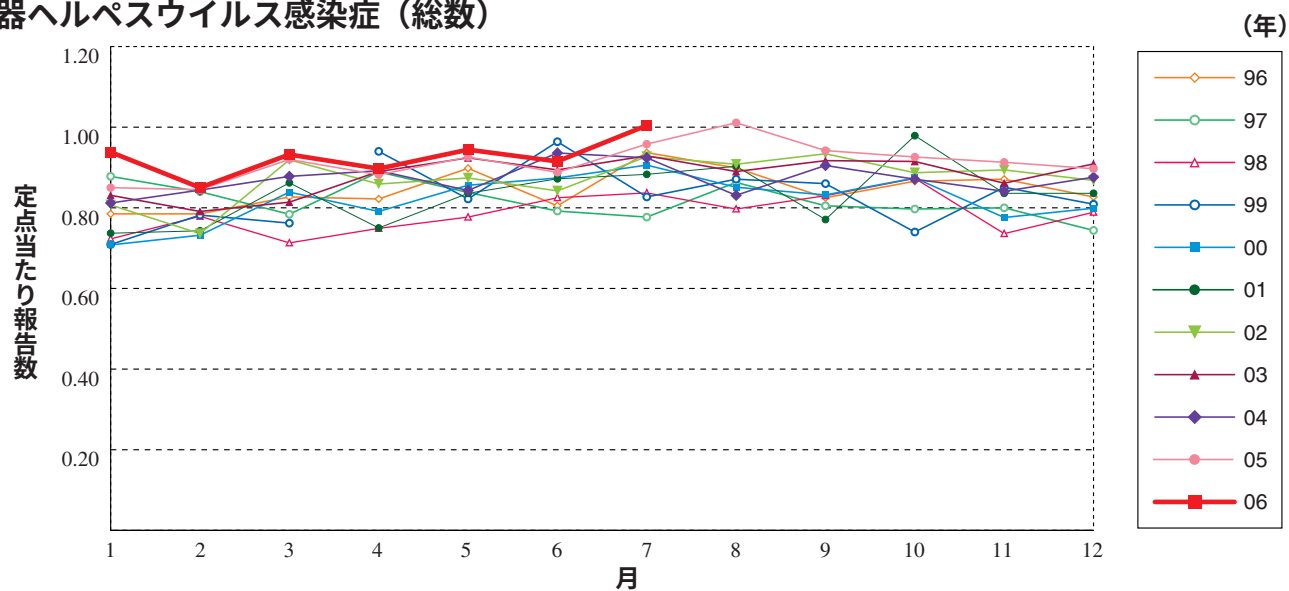
性器クラミジア感染症 (男性)



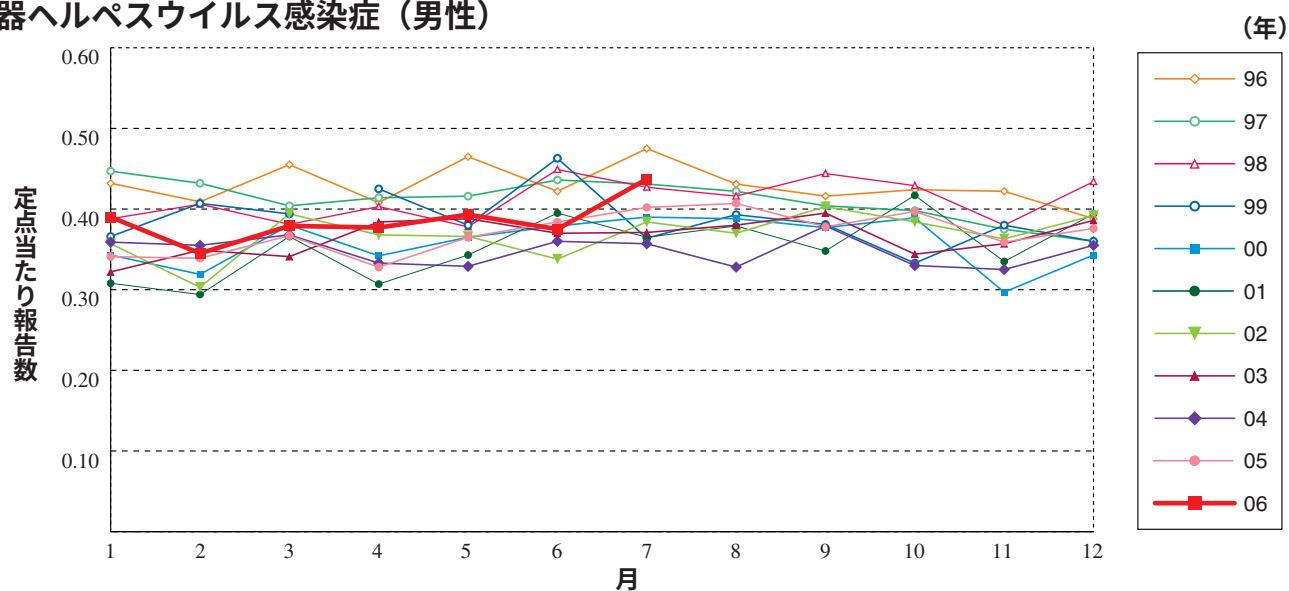
性器クラミジア感染症 (女性)



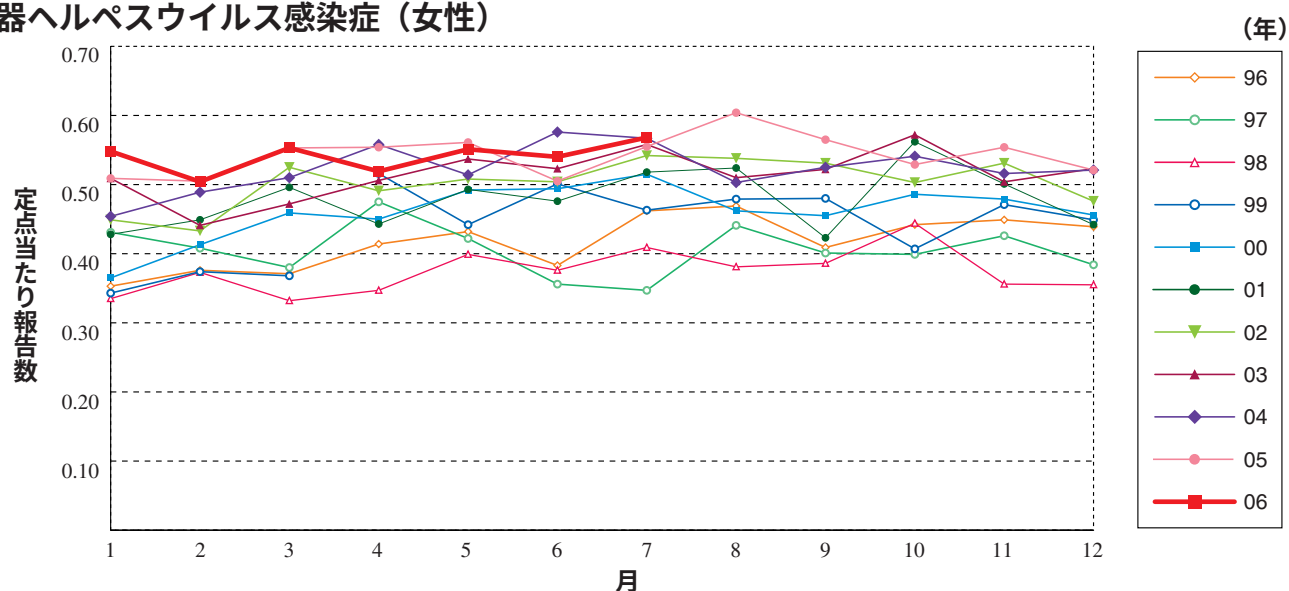
性器ヘルペスウイルス感染症（総数）



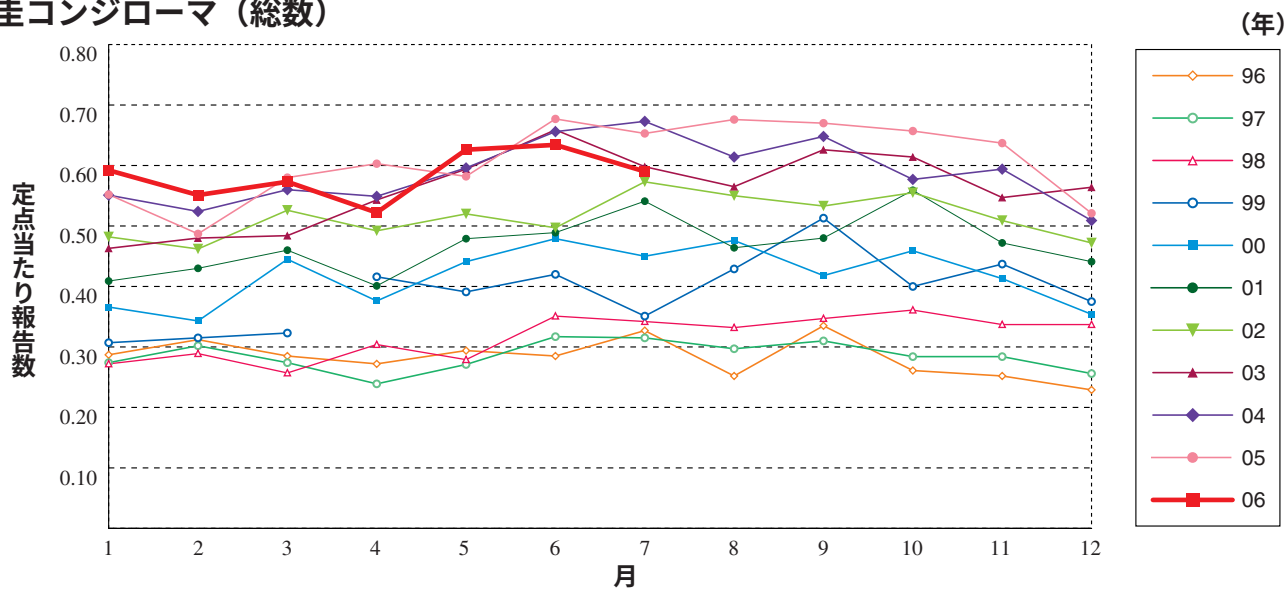
性器ヘルペスウイルス感染症（男性）



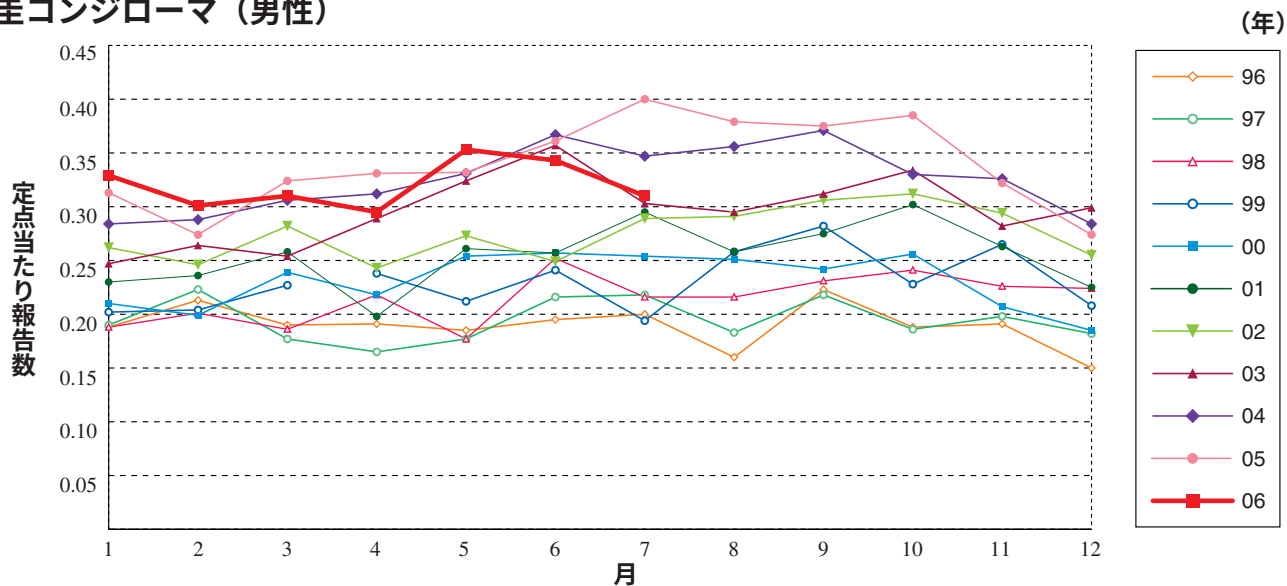
性器ヘルペスウイルス感染症（女性）



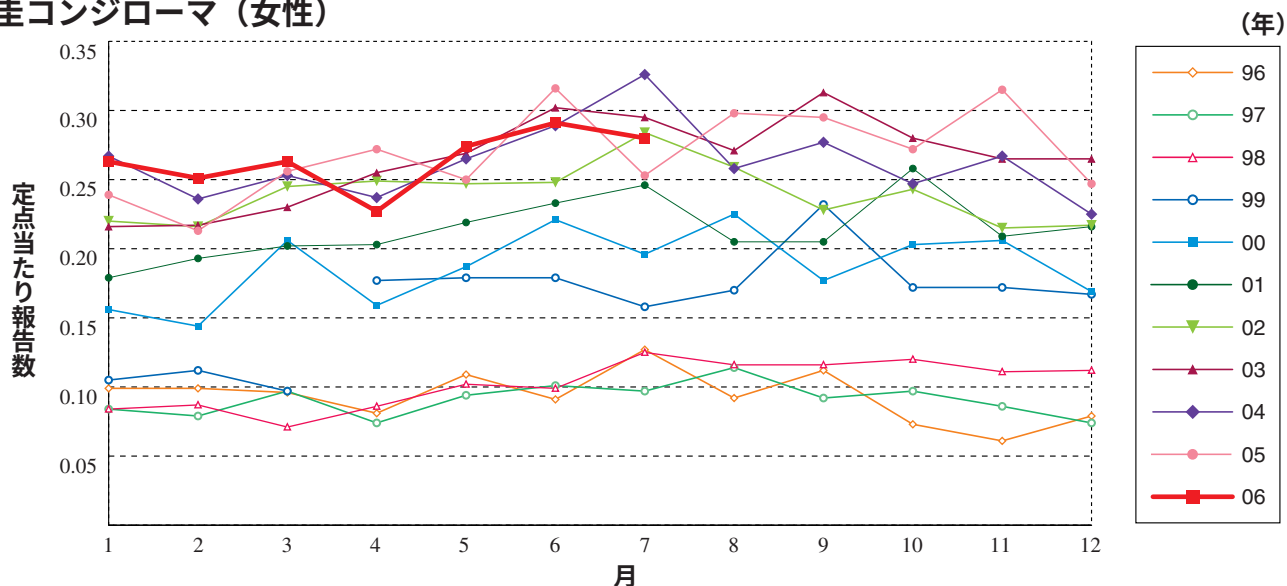
尖圭コンジローマ（総数）



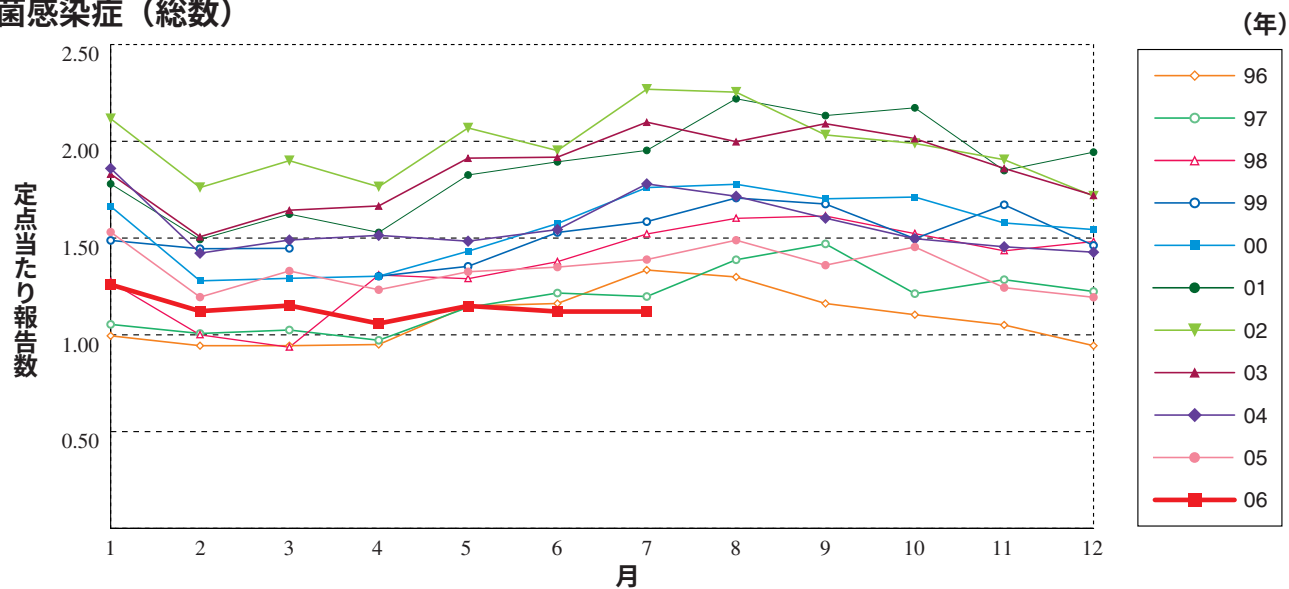
尖圭コンジローマ（男性）



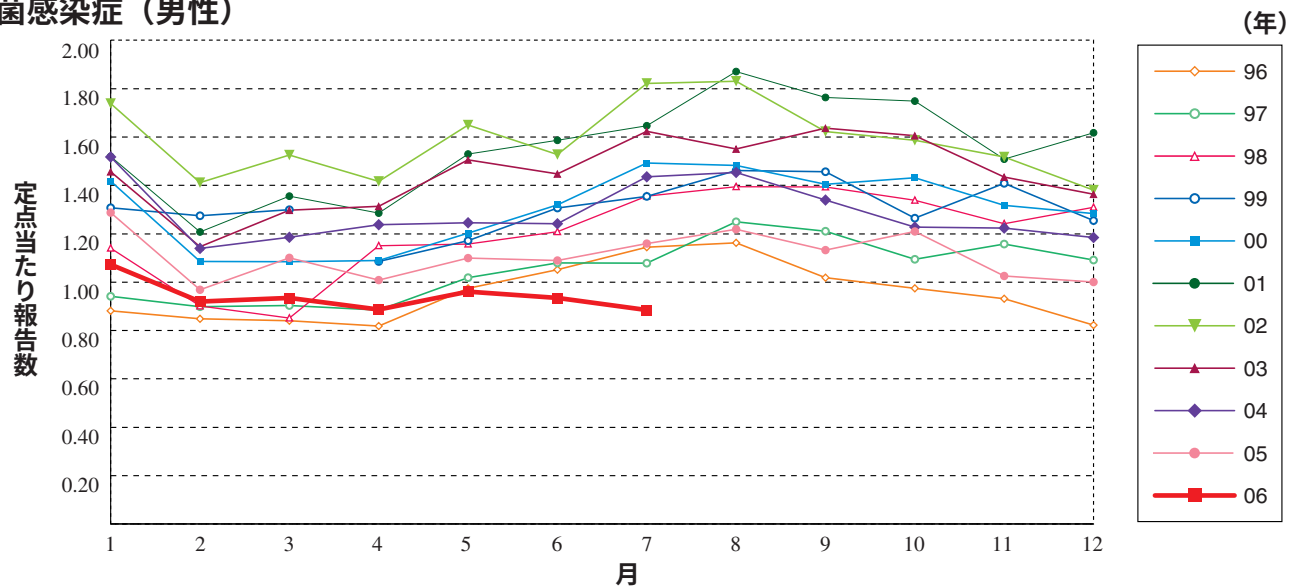
尖圭コンジローマ（女性）



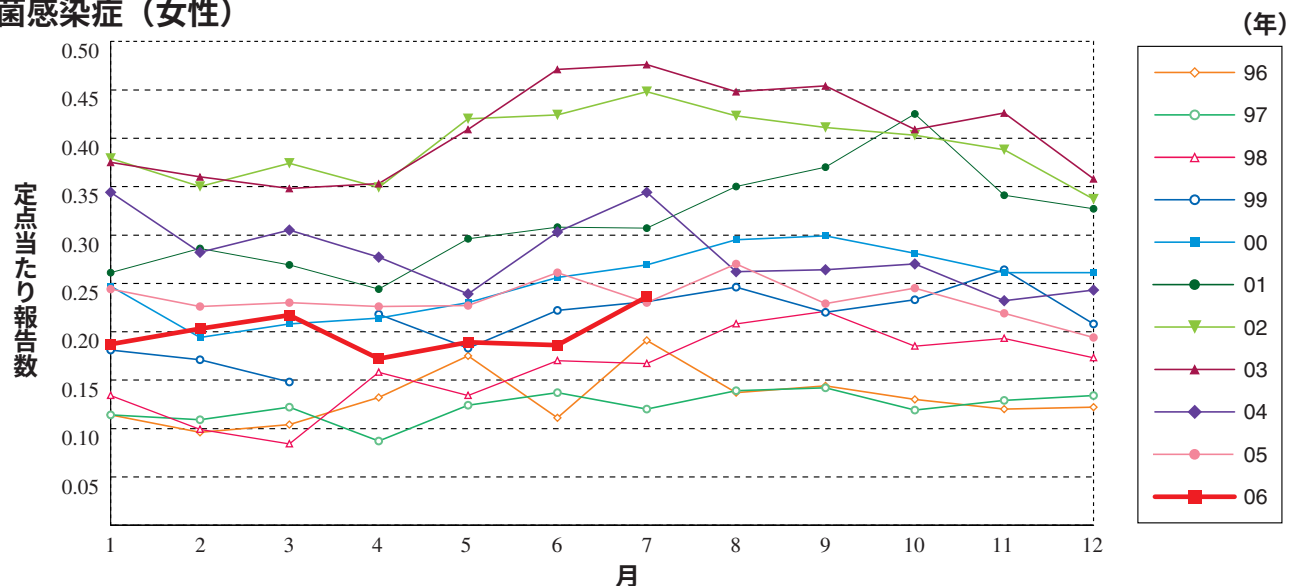
淋菌感染症 (総数)



淋菌感染症 (男性)

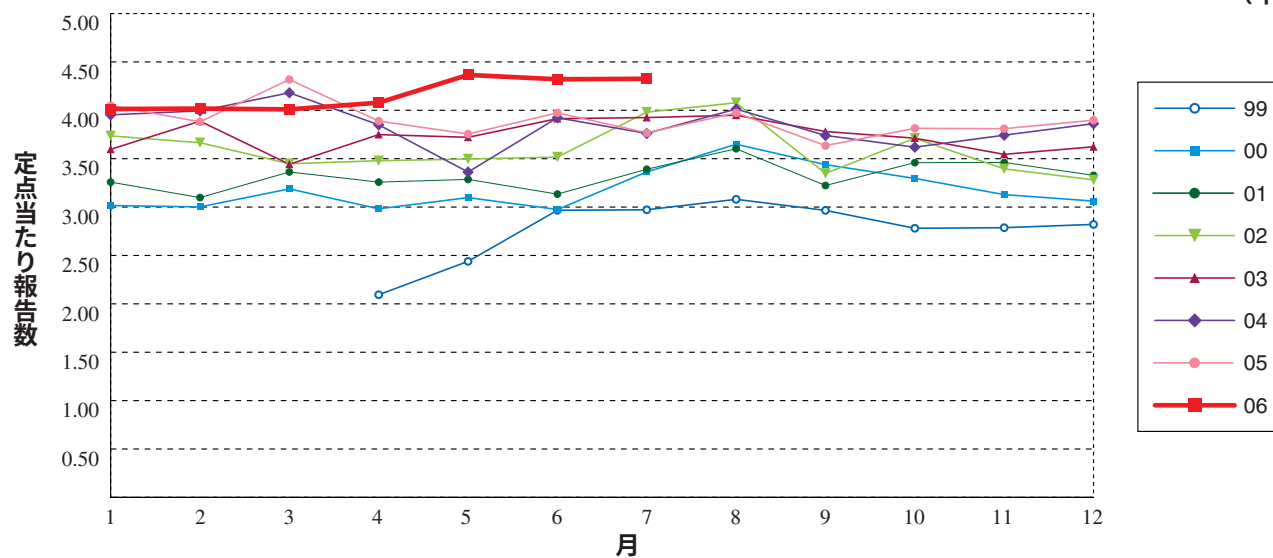


淋菌感染症 (女性)



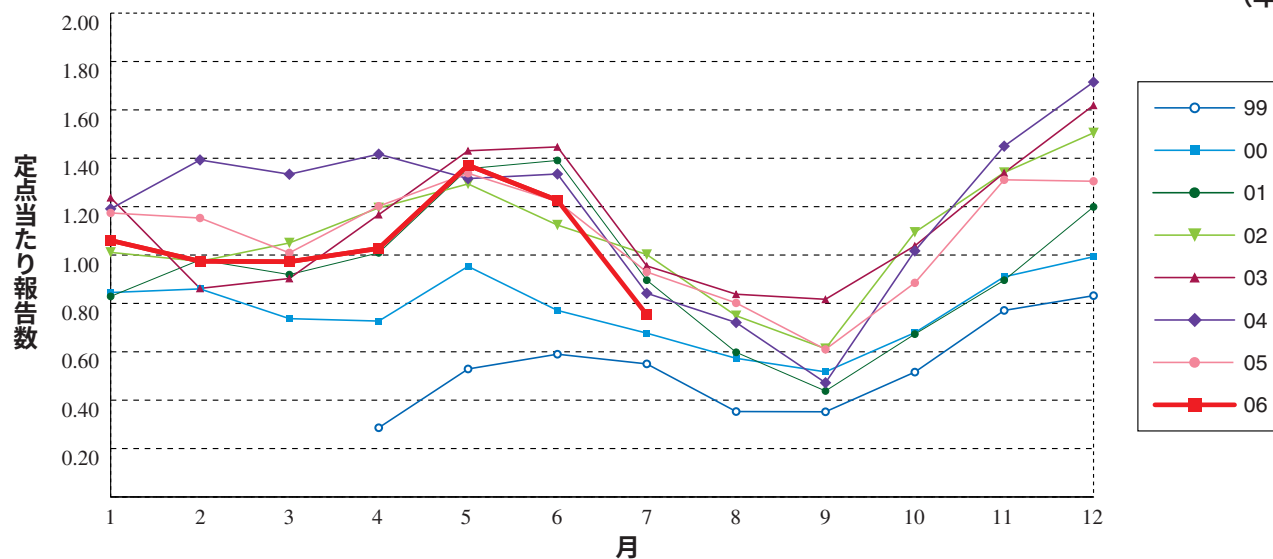
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

(年)



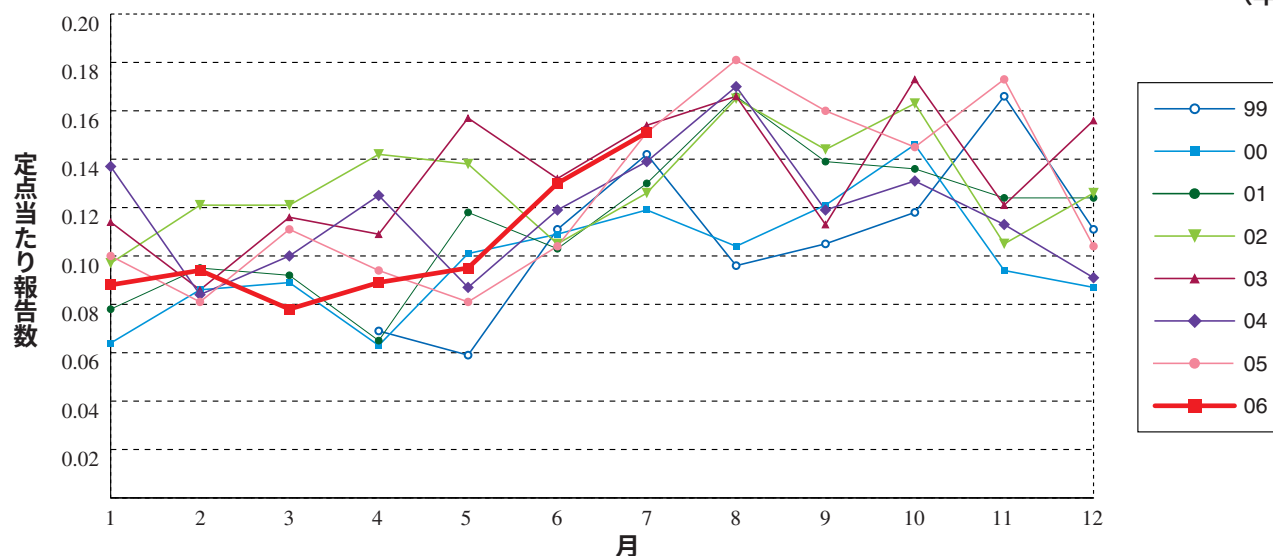
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

(年)



薬剤耐性緑膿菌感染症

(年)





7月のデータ

注) 8月11日集計分

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県・性別 (総数)

2006年7月

	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症		メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	2792	2.95	952	1.00	559	0.59	1062	1.12	1981	4.33	345	0.75	69	0.15
北海道	212	5.05	53	1.26	34	0.81	45	1.07	51	2.22	3	0.13	2	0.09
青森県	31	2.38	11	0.85	5	0.38	7	0.54	4	0.67	-	-	-	-
岩手県	39	3.00	8	0.62	15	1.15	6	0.46	93	4.65	12	0.60	9	0.45
宮城県	50	2.63	19	1.00	20	1.05	15	0.79	49	4.08	7	0.58	2	0.17
秋田県	33	2.36	8	0.57	7	0.50	11	0.79	31	3.88	9	1.13	-	-
山形県	12	1.20	7	0.70	5	0.50	5	0.50	40	4.00	7	0.70	-	-
福島県	63	2.63	15	0.63	12	0.50	19	0.79	57	8.14	1	0.14	7	1.00
茨城県	109	5.19	19	0.90	9	0.43	21	1.00	30	4.29	-	-	1	0.14
栃木県	59	3.69	23	1.44	17	1.06	34	2.13	60	8.57	2	0.29	-	-
群馬県	83	3.19	13	0.50	7	0.27	21	0.81	35	4.38	16	2.00	-	-
埼玉県	188	3.48	41	0.76	26	0.48	43	0.80	20	2.22	5	0.56	1	0.11
千葉県	110	2.89	40	1.05	19	0.50	36	0.95	39	4.33	35	3.89	2	0.22
東京都	191	4.66	71	1.73	57	1.39	65	1.59	124	4.96	44	1.76	3	0.12
神奈川県	97	1.80	45	0.83	22	0.41	51	0.94	40	4.44	15	1.67	1	0.11
新潟県	26	1.63	15	0.94	11	0.69	24	1.50	68	5.23	3	0.23	-	-
富山県	19	1.90	6	0.60	4	0.40	8	0.80	37	7.40	31	6.20	1	0.20
石川県	18	1.80	7	0.70	4	0.40	11	1.10	18	3.60	-	-	1	0.20
福井県	9	1.80	8	1.60	1	0.20	-	-	38	6.33	8	1.33	-	-
山梨県	26	2.89	4	0.44	2	0.22	1	0.11	18	1.80	13	1.30	4	0.40
長野県	40	2.50	13	0.81	9	0.56	14	0.88	16	1.45	6	0.55	-	-
岐阜県	31	2.07	16	1.07	12	0.80	15	1.00	29	5.80	1	0.20	-	-
静岡県	76	2.53	16	0.53	10	0.33	10	0.33	46	4.60	10	1.00	4	0.40
愛知県	148	2.51	35	0.59	34	0.58	69	1.17	65	5.00	-	-	-	-
三重県	23	1.53	6	0.40	6	0.40	15	1.00	43	5.38	4	0.50	1	0.13
滋賀県	6	0.67	1	0.11	2	0.22	4	0.44	47	6.71	-	-	-	-
京都府	33	1.50	10	0.45	6	0.27	3	0.14	12	1.71	-	-	-	-
大阪府	282	4.34	174	2.68	77	1.18	165	2.54	66	4.71	10	0.71	1	0.07
兵庫県	108	2.40	40	0.89	25	0.56	43	0.96	26	2.17	-	-	-	-
奈良県	19	2.11	1	0.11	4	0.44	5	0.56	36	6.00	3	0.50	5	0.83
和歌山県	15	1.88	4	0.50	5	0.63	11	1.38	44	4.00	3	0.27	-	-
鳥取県	10	2.00	2	0.40	2	0.40	4	0.80	19	3.80	-	-	-	-
島根県	8	1.33	2	0.33	3	0.50	6	1.00	35	4.38	6	0.75	2	0.25
岡山県	73	3.17	8	0.35	6	0.26	31	1.35	16	3.20	1	0.20	-	-
広島県	40	1.74	15	0.65	10	0.43	11	0.48	94	4.48	17	0.81	5	0.24
山口県	22	2.20	12	1.20	1	0.10	10	1.00	84	9.33	10	1.11	1	0.11
徳島県	20	4.00	1	0.20	4	0.80	4	0.80	22	3.67	-	-	-	-
香川県	23	1.53	17	1.13	6	0.40	17	1.13	31	6.20	2	0.40	-	-
愛媛県	13	1.18	9	0.82	9	0.82	16	1.45	14	2.33	-	-	-	-
高知県	3	0.50	2	0.33	-	-	1	0.17	59	8.43	11	1.57	1	0.14
福岡県	223	6.03	54	1.46	36	0.97	96	2.59	58	3.87	7	0.47	-	-
佐賀県	14	2.00	7	1.00	1	0.14	7	1.00	38	6.33	7	1.17	-	-
長崎県	19	1.90	17	1.70	1	0.10	4	0.40	22	2.20	4	0.40	2	0.20
熊本県	43	3.31	22	1.69	3	0.23	18	1.38	48	3.20	2	0.13	-	-
大分県	9	0.90	21	2.10	2	0.20	9	0.90	56	5.09	11	1.00	5	0.45
宮崎県	34	3.09	8	0.73	2	0.18	24	2.18	32	4.57	3	0.43	3	0.43
鹿児島県	43	2.69	22	1.38	6	0.38	23	1.44	30	2.50	2	0.17	3	0.25
沖縄県	39	3.25	4	0.33	-	-	4	0.33	41	5.86	14	2.00	2	0.29

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県・性別 (男)

2006年7月

	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症		メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	1223	1.29	414	0.44	294	0.31	838	0.88	1265	2.76	209	0.46	52	0.11
北海道	50	1.19	11	0.26	16	0.38	21	0.50	31	1.35	2	0.09	2	0.09
青森県	15	1.15	7	0.54	4	0.31	6	0.46	4	0.67	-	-	-	-
岩手県	17	1.31	5	0.38	4	0.31	5	0.38	59	2.95	8	0.40	5	0.25
宮城県	22	1.16	5	0.26	9	0.47	14	0.74	27	2.25	3	0.25	2	0.17
秋田県	13	0.93	7	0.50	5	0.36	6	0.43	27	3.38	6	0.75	-	-
山形県	7	0.70	1	0.10	3	0.30	4	0.40	26	2.60	5	0.50	-	-
福島県	26	1.08	7	0.29	6	0.25	19	0.79	43	6.14	1	0.14	5	0.71
茨城県	50	2.38	5	0.24	4	0.19	14	0.67	16	2.29	-	-	1	0.14
栃木県	42	2.63	16	1.00	16	1.00	30	1.88	42	6.00	1	0.14	-	-
群馬県	32	1.23	2	0.08	4	0.15	17	0.65	22	2.75	9	1.13	-	-
埼玉県	44	0.81	15	0.28	11	0.20	35	0.65	15	1.67	4	0.44	-	-
千葉県	47	1.24	22	0.58	11	0.29	29	0.76	31	3.44	17	1.89	2	0.22
東京都	87	2.12	39	0.95	38	0.93	58	1.41	78	3.12	30	1.20	2	0.08
神奈川県	45	0.83	29	0.54	10	0.19	46	0.85	24	2.67	7	0.78	1	0.11
新潟県	16	1.00	9	0.56	4	0.25	22	1.38	44	3.38	1	0.08	-	-
富山県	7	0.70	1	0.10	1	0.10	8	0.80	25	5.00	23	4.60	1	0.20
石川県	12	1.20	1	0.10	3	0.30	10	1.00	11	2.20	-	-	1	0.20
福井県	5	1.00	6	1.20	1	0.20	-	-	28	4.67	5	0.83	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	1	0.11	15	1.50	6	0.60	2	0.20
長野県	16	1.00	10	0.63	4	0.25	11	0.69	11	1.00	4	0.36	-	-
岐阜県	15	1.00	10	0.67	12	0.80	14	0.93	17	3.40	-	-	-	-
静岡県	25	0.83	3	0.10	7	0.23	9	0.30	25	2.50	6	0.60	4	0.40
愛知県	104	1.76	24	0.41	23	0.39	63	1.07	42	3.23	-	-	-	-
三重県	10	0.67	4	0.27	2	0.13	15	1.00	33	4.13	2	0.25	1	0.13
滋賀県	3	0.33	-	-	1	0.11	4	0.44	28	4.00	-	-	-	-
京都府	7	0.32	2	0.09	2	0.09	1	0.05	5	0.71	-	-	-	-
大阪府	105	1.62	75	1.15	28	0.43	99	1.52	41	2.93	6	0.43	1	0.07
兵庫県	51	1.13	22	0.49	14	0.31	35	0.78	14	1.17	-	-	-	-
奈良県	12	1.33	1	0.11	4	0.44	5	0.56	25	4.17	2	0.33	4	0.67
和歌山県	10	1.25	-	-	5	0.63	9	1.13	28	2.55	3	0.27	-	-
鳥取県	6	1.20	1	0.20	1	0.20	4	0.80	13	2.60	-	-	-	-
島根県	6	1.00	2	0.33	2	0.33	6	1.00	30	3.75	2	0.25	1	0.13
岡山県	39	1.70	-	-	1	0.04	25	1.09	12	2.40	1	0.20	-	-
広島県	17	0.74	5	0.22	4	0.17	10	0.43	64	3.05	10	0.48	3	0.14
山口県	7	0.70	1	0.10	-	-	6	0.60	49	5.44	6	0.67	1	0.11
徳島県	19	3.80	1	0.20	4	0.80	4	0.80	11	1.83	-	-	-	-
香川県	9	0.60	9	0.60	4	0.27	15	1.00	17	3.40	1	0.20	-	-
愛媛県	3	0.27	5	0.45	2	0.18	12	1.09	8	1.33	-	-	-	-
高知県	2	0.33	-	-	-	-	1	0.17	32	4.57	3	0.43	1	0.14
福岡県	124	3.35	21	0.57	18	0.49	80	2.16	36	2.40	4	0.27	-	-
佐賀県	11	1.57	3	0.43	-	-	7	1.00	26	4.33	4	0.67	-	-
長崎県	13	1.30	4	0.40	1	0.10	4	0.40	14	1.40	4	0.40	2	0.20
熊本県	10	0.77	1	0.08	-	-	11	0.85	28	1.87	2	0.13	-	-
大分県	5	0.50	3	0.30	-	-	5	0.50	31	2.82	9	0.82	4	0.36
宮崎県	18	1.64	2	0.18	1	0.09	21	1.91	19	2.71	2	0.29	3	0.43
鹿児島県	30	1.88	15	0.94	4	0.25	15	0.94	18	1.50	-	-	3	0.25
沖縄県	9	0.75	2	0.17	-	-	2	0.17	20	2.86	10	1.43	-	-

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県・性別(女)

2006年7月

	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症		メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	1569	1.66	538	0.57	265	0.28	224	0.24	716	1.56	136	0.30	17	0.04
北海道	162	3.86	42	1.00	18	0.43	24	0.57	20	0.87	1	0.04	-	-
青森県	16	1.23	4	0.31	1	0.08	1	0.08	-	-	-	-	-	-
岩手県	22	1.69	3	0.23	11	0.85	1	0.08	34	1.70	4	0.20	4	0.20
宮城県	28	1.47	14	0.74	11	0.58	1	0.05	22	1.83	4	0.33	-	-
秋田県	20	1.43	1	0.07	2	0.14	5	0.36	4	0.50	3	0.38	-	-
山形県	5	0.50	6	0.60	2	0.20	1	0.10	14	1.40	2	0.20	-	-
福島県	37	1.54	8	0.33	6	0.25	-	-	14	2.00	-	-	2	0.29
茨城県	59	2.81	14	0.67	5	0.24	7	0.33	14	2.00	-	-	-	-
栃木県	17	1.06	7	0.44	1	0.06	4	0.25	18	2.57	1	0.14	-	-
群馬県	51	1.96	11	0.42	3	0.12	4	0.15	13	1.63	7	0.88	-	-
埼玉県	144	2.67	26	0.48	15	0.28	8	0.15	5	0.56	1	0.11	1	0.11
千葉県	63	1.66	18	0.47	8	0.21	7	0.18	8	0.89	18	2.00	-	-
東京都	104	2.54	32	0.78	19	0.46	7	0.17	46	1.84	14	0.56	1	0.04
神奈川県	52	0.96	16	0.30	12	0.22	5	0.09	16	1.78	8	0.89	-	-
新潟県	10	0.63	6	0.38	7	0.44	2	0.13	24	1.85	2	0.15	-	-
富山県	12	1.20	5	0.50	3	0.30	-	-	12	2.40	8	1.60	-	-
石川県	6	0.60	6	0.60	1	0.10	1	0.10	7	1.40	-	-	-	-
福井県	4	0.80	2	0.40	-	-	-	-	10	1.67	3	0.50	-	-
山梨県	26	2.89	4	0.44	2	0.22	-	-	3	0.30	7	0.70	2	0.20
長野県	24	1.50	3	0.19	5	0.31	3	0.19	5	0.45	2	0.18	-	-
岐阜県	16	1.07	6	0.40	-	-	1	0.07	12	2.40	1	0.20	-	-
静岡県	51	1.70	13	0.43	3	0.10	1	0.03	21	2.10	4	0.40	-	-
愛知県	44	0.75	11	0.19	11	0.19	6	0.10	23	1.77	-	-	-	-
三重県	13	0.87	2	0.13	4	0.27	-	-	10	1.25	2	0.25	-	-
滋賀県	3	0.33	1	0.11	1	0.11	-	-	19	2.71	-	-	-	-
京都府	26	1.18	8	0.36	4	0.18	2	0.09	7	1.00	-	-	-	-
大阪府	177	2.72	99	1.52	49	0.75	66	1.02	25	1.79	4	0.29	-	-
兵庫県	57	1.27	18	0.40	11	0.24	8	0.18	12	1.00	-	-	-	-
奈良県	7	0.78	-	-	-	-	-	-	11	1.83	1	0.17	1	0.17
和歌山県	5	0.63	4	0.50	-	-	2	0.25	16	1.45	-	-	-	-
鳥取県	4	0.80	1	0.20	1	0.20	-	-	6	1.20	-	-	-	-
島根県	2	0.33	-	-	1	0.17	-	-	5	0.63	4	0.50	1	0.13
岡山県	34	1.48	8	0.35	5	0.22	6	0.26	4	0.80	-	-	-	-
広島県	23	1.00	10	0.43	6	0.26	1	0.04	30	1.43	7	0.33	2	0.10
山口県	15	1.50	11	1.10	1	0.10	4	0.40	35	3.89	4	0.44	-	-
徳島県	1	0.20	-	-	-	-	-	-	11	1.83	-	-	-	-
香川県	14	0.93	8	0.53	2	0.13	2	0.13	14	2.80	1	0.20	-	-
愛媛県	10	0.91	4	0.36	7	0.64	4	0.36	6	1.00	-	-	-	-
高知県	1	0.17	2	0.33	-	-	-	-	27	3.86	8	1.14	-	-
福岡県	99	2.68	33	0.89	18	0.49	16	0.43	22	1.47	3	0.20	-	-
佐賀県	3	0.43	4	0.57	1	0.14	-	-	12	2.00	3	0.50	-	-
長崎県	6	0.60	13	1.30	-	-	-	-	8	0.80	-	-	-	-
熊本県	33	2.54	21	1.62	3	0.23	7	0.54	20	1.33	-	-	-	-
大分県	4	0.40	18	1.80	2	0.20	4	0.40	25	2.27	2	0.18	1	0.09
宮崎県	16	1.45	6	0.55	1	0.09	3	0.27	13	1.86	1	0.14	-	-
鹿児島県	13	0.81	7	0.44	2	0.13	8	0.50	12	1.00	2	0.17	-	-
沖縄県	30	2.50	2	0.17	-	-	2	0.17	21	3.00	4	0.57	2	0.29

注) 8月23日集計分

新登録患者数・都道府県別

2006年7月

	結 核	
	報告数	
総 数	2240	
北海道	55	
青森県	27	
岩手県	15	
宮城県	22	
秋田県	15	
山形県	12	
福島県	36	
茨城県	40	
栃木県	31	
群馬県	13	
埼玉県	99	
千葉県	108	
東京都	253	
神奈川県	136	
新潟県	37	
富山県	26	
石川県	8	
福井県	14	
山梨県	5	
長野県	21	
岐阜県	47	
静岡県	71	
愛知県	146	
三重県	34	
滋賀県	18	
京都府	60	
大阪府	263	
兵庫県	121	
奈良県	38	
和歌山県	19	
鳥取県	9	
島根県	13	
岡山県	31	
広島県	39	
山口県	21	
徳島県	16	
香川県	21	
愛媛県	24	
高知県	9	
福岡県	117	
佐賀県	14	
長崎県	33	
熊本県	26	
大分県	16	
宮崎県	10	
鹿児島県	23	
沖縄県	28	



33週のデータ

注1) 表中の報告数は8月24日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されます。

2006年4月からの報告システムの変更に伴い、疾病の並び順を一部変更しました。

注2) また報告システム変更の影響により、ここの「累積」においては漏れている報告例もありますが、近いうちにそれらも反映する予定です。

*病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2006年33週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		重症急性呼吸器症候群*		痘 そう		ペ ス ト		マールブルグ病		ラッサ熱		急性灰白髄炎		コレラ	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	34
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年33週

	細菌性赤痢		ジフテリア		腸チフス		パラチフス		腸管出血性 大腸菌感染症		E型肝炎		ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)		A型肝炎		エキノкокクス症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	10	257	-	-	-	52	-	16	158	2034	-	45	-	-	3	237	-	15
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	3	35	-	12	-	-	-	12	-	14
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	2	28	-	-	-	-	-	2	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	27	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	35	-	2	-	-	-	4	-	-
秋田県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	57	-	-	-	-	-	2	-	-
山形県	-	1	-	-	-	-	-	-	3	23	-	-	-	-	-	1	-	-
福島県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	19	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	-	-	1	-	-	-	14	-	1	-	-	-	2	-	-
栃木県	1	3	-	-	-	1	-	-	-	9	-	2	-	-	-	1	-	-
群馬県	-	1	-	-	-	-	-	-	2	102	-	1	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	7	-	-	-	4	-	-	4	66	-	-	-	-	-	8	-	-
千葉県	5	49	-	-	-	4	-	1	5	77	-	1	-	-	-	3	-	-
東京都	-	35	-	-	-	16	-	10	11	153	-	3	-	-	-	23	-	-
神奈川県	1	13	-	-	-	6	-	1	3	89	-	7	-	-	-	11	-	-
新潟県	-	8	-	-	-	1	-	-	6	12	-	1	-	-	-	15	-	-
富山県	-	2	-	-	-	-	-	-	3	19	-	1	-	-	-	2	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	4	49	-	-	-	-	1	2	-	-
福井県	-	-	-	-	-	1	-	-	2	21	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	1	6	-	-	-	1	-	1	5	25	-	2	-	-	-	2	-	-
岐阜県	-	1	-	-	-	-	-	-	2	79	-	-	-	-	-	8	-	-
静岡県	-	3	-	-	-	1	-	-	1	42	-	-	-	-	-	5	-	-
愛知県	-	19	-	-	-	4	-	2	8	120	-	3	-	-	-	16	-	-
三重県	-	2	-	-	-	-	-	-	1	22	-	-	-	-	-	1	-	1
滋賀県	-	3	-	-	-	-	-	-	4	26	-	-	-	-	-	2	-	-
京都府	-	1	-	-	-	1	-	-	1	26	-	1	-	-	-	9	-	-
大阪府	-	56	-	-	-	6	-	1	9	174	-	-	-	-	-	31	-	-
兵庫県	-	15	-	-	-	-	-	-	7	99	-	1	-	-	-	19	-	-
奈良県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	14	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	1	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	8	61	-	-	-	-	-	14	-	-
広島県	-	4	-	-	-	-	-	-	6	58	-	1	-	-	-	7	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	2	34	-	1	-	-	-	4	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	1	-	-
愛媛県	-	4	-	-	-	2	-	-	-	13	-	-	-	-	-	4	-	-
高知県	-	2	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-
福岡県	2	13	-	-	-	1	-	-	8	110	-	1	-	-	-	7	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	25	39	-	-	-	-	-	2	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	4	20	-	-	-	-	1	7	-	-
熊本県	-	1	-	-	-	-	-	-	9	68	-	4	-	-	1	3	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	22	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	3	47	-	-	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	3	25	-	-	-	-	-	2	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-	-	1	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年33週

	黄 熱		オウム病		回 帰 熱		Q 熱		狂 犬 病		高病原性鳥 インフルエンザ		コクシジ オイデス症		サル 痘		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	15		-	-	1		-	-	-	-	1		-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	1		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	1		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	3		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	1		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	1		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	1		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	1		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	2		-	-	1		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年33週

	炭 疽		つつが虫病		デング熱		ニパウイルス 感染症		日本紅斑熱		日本脳炎		ハンタウイルス 肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	174	1	30	-	-	1	15	-	-	-	-	-	-	-	3
北海道	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
青森県	-	-	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	3	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
神奈川県	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	9	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	4	-	-	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年33週

	発しんチフス		ボツリヌス症		マラリア		野 兎 病		ライム病		リッサウイルス 感染症		レジオネラ症		レプトスピラ症		アメーバ赤痢	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	1	2	38	-	-	-	4	-	-	10	303	-	1	12	461
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	7	-	-	-	11
青森県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	1	8
秋田県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	5
茨城県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	6	-	-	-	4
栃木県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-	3
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	15	-	-	-	19
千葉県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	25
東京都	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	1	42	-	-	6	122
神奈川県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	18	-	-	-	45
新潟県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	15	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	11	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	3
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	6
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	6
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	11
愛知県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	1	23	-	-	-	30
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	1	6
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	6
京都府	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	2	13
大阪府	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	19	-	1	1	57
兵庫県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	27
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	5
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	4
鳥取県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	5
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	3
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
高知県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	1	8
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

*E型肝炎およびA型肝炎を除く。

**ウエストナイル脳炎および日本脳炎を除く。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年33週

	ウイルス性肝炎*		急性脳炎**		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		ジアルジア症		髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風しん 症候群	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	5	165	1	105	-	10	1	101	-	81	17	778	2	59	-	9	-	-
北海道	-	4	-	3	-	2	-	4	-	6	-	20	-	1	-	-	-	-
青森県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-
福島県	-	2	-	2	-	-	-	2	-	2	-	8	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	3	-	6	-	-	-	1	-	2	-	21	-	1	-	-	-	-
栃木県	1	2	-	5	-	-	-	1	-	-	1	22	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	1	-	-	-	3	-	3	-	7	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	2	-	6	-	-	-	4	-	3	-	24	-	1	-	1	-	-
千葉県	-	2	-	15	-	-	-	4	-	6	2	35	-	-	-	-	-	-
東京都	-	22	-	4	-	5	-	11	-	11	8	261	1	18	-	1	-	-
神奈川県	2	8	-	3	-	1	-	7	-	4	-	43	-	6	-	2	-	-
新潟県	-	-	-	2	-	-	-	5	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
富山県	-	3	-	1	-	-	-	3	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
石川県	-	1	-	4	-	1	-	1	-	2	-	6	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-
山梨県	-	2	-	2	-	-	-	4	-	-	-	4	-	6	-	-	-	-
長野県	-	6	-	-	-	-	-	1	-	1	-	16	-	-	-	1	-	-
岐阜県	-	3	-	1	-	-	-	1	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	5	-	2	-	-	-	3	-	5	1	13	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	7	-	3	-	-	-	3	-	8	-	63	-	2	-	1	-	-
三重県	-	8	-	3	-	-	-	1	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	7	-	1	-	-	-	-
京都府	-	3	-	-	-	-	-	3	-	1	1	20	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	19	-	7	-	1	1	6	-	3	1	81	-	9	-	1	-	-
兵庫県	-	16	-	4	-	-	-	4	-	5	1	26	-	1	-	-	-	-
奈良県	1	6	-	1	-	-	-	-	-	2	1	11	-	3	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-
島根県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	4	-	2	-	-	-	2	-	1	-	6	-	2	-	-	-	-
広島県	-	6	-	7	-	-	-	4	-	-	-	7	-	1	-	-	-	-
山口県	-	2	-	1	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	3	-	1	-	-	-	2	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
高知県	1	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	6	-	7	-	-	-	5	-	-	-	13	1	3	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	1	-	-
熊本県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-	-	5	-	1	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年33週

	梅 毒		破 傷 風		バンコマイシン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		バンコマイシン耐性 腸球菌感染症		インフルエンザ (H5N1)	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	4	380	2	64	-	-	-	43	-	-
北海道	-	7	-	2	-	-	-	-	-	-
青森県	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-
岩手県	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-
宮城県	-	9	-	-	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-
福島県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	5	-	2	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	4	-	2	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	4	-	2	-	-	-	2	-	-
千葉県	-	10	-	6	-	-	-	1	-	-
東京都	2	80	-	6	-	-	-	7	-	-
神奈川県	-	15	-	4	-	-	-	6	-	-
新潟県	-	4	-	2	-	-	-	2	-	-
富山県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
石川県	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
福井県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-
長野県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-
静岡県	-	8	-	-	-	-	-	3	-	-
愛知県	-	31	-	2	-	-	-	-	-	-
三重県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	7	-	1	-	-	-	2	-	-
大阪府	1	22	-	2	-	-	-	4	-	-
兵庫県	-	13	-	1	-	-	-	1	-	-
奈良県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
岡山県	-	3	-	3	-	-	-	1	-	-
広島県	-	5	-	2	-	-	-	-	-	-
山口県	-	8	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-
香川県	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	1	21	-	1	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	24	-	-	-	-	-	1	-	-
佐賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	27	-	2	-	-	-	1	-	-
大分県	-	5	-	2	-	-	-	2	-	-
宮崎県	-	5	-	3	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	12	-	5	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-

*高病原性鳥インフルエンザを除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2006年33週

	インフルエンザ*		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水 痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		百 日 咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	48	0.01	2319	0.80	1385	0.48	6251	2.15	2012	0.69	2729	0.94	739	0.25	1859	0.64	26	0.01
北海道	-	-	129	0.90	88	0.62	114	0.80	113	0.79	116	0.81	8	0.06	80	0.56	-	-
青森県	2	0.03	17	0.40	7	0.17	43	1.02	41	0.98	21	0.50	10	0.24	27	0.64	-	-
岩手県	-	-	5	0.13	12	0.31	69	1.77	25	0.64	17	0.44	5	0.13	21	0.54	-	-
宮城県	1	0.01	13	0.21	19	0.31	131	2.15	53	0.87	30	0.49	29	0.48	35	0.57	-	-
秋田県	1	0.02	20	0.57	35	1.00	81	2.31	14	0.40	7	0.20	16	0.46	14	0.40	-	-
山形県	-	-	36	1.20	22	0.73	35	1.17	13	0.43	10	0.33	12	0.40	15	0.50	-	-
福島県	-	-	26	0.54	42	0.88	95	1.98	40	0.83	39	0.81	22	0.46	23	0.48	-	-
茨城県	1	0.02	44	0.59	51	0.68	66	0.88	57	0.76	33	0.44	26	0.35	31	0.41	-	-
栃木県	-	-	20	0.47	6	0.14	34	0.79	35	0.81	96	2.23	4	0.09	29	0.67	1	0.02
群馬県	-	-	54	0.93	31	0.53	123	2.12	41	0.71	41	0.71	5	0.09	40	0.69	1	0.02
埼玉県	3	0.01	146	1.14	67	0.52	266	2.08	146	1.14	210	1.64	54	0.42	82	0.64	1	0.01
千葉県	1	0.01	40	0.37	46	0.43	136	1.26	70	0.65	53	0.49	31	0.29	70	0.65	11	0.10
東京都	-	-	48	0.35	44	0.32	241	1.73	47	0.34	79	0.57	33	0.24	59	0.42	-	-
神奈川県	1	0.00	92	0.56	54	0.33	312	1.91	69	0.42	109	0.67	43	0.26	95	0.58	-	-
新潟県	-	-	34	0.56	34	0.56	43	0.70	37	0.61	202	3.31	17	0.28	40	0.66	1	0.02
富山県	-	-	28	0.97	20	0.69	105	3.62	12	0.41	38	1.31	4	0.14	18	0.62	-	-
石川県	-	-	27	0.93	10	0.34	85	2.93	21	0.72	99	3.41	1	0.03	23	0.79	-	-
福井県	-	-	10	0.45	6	0.27	188	8.55	39	1.77	100	4.55	2	0.09	20	0.91	-	-
山梨県	-	-	8	0.33	8	0.33	18	0.75	11	0.46	23	0.96	3	0.13	7	0.29	-	-
長野県	-	-	69	1.25	38	0.69	101	1.84	40	0.73	137	2.49	15	0.27	31	0.56	-	-
岐阜県	-	-	47	0.90	22	0.42	76	1.46	42	0.81	89	1.71	20	0.38	37	0.71	-	-
静岡県	-	-	105	1.22	54	0.63	265	3.08	54	0.63	163	1.90	49	0.57	68	0.79	1	0.01
愛知県	-	-	116	0.64	65	0.36	233	1.28	191	1.05	218	1.20	85	0.47	95	0.52	1	0.01
三重県	-	-	79	1.76	30	0.67	151	3.36	31	0.69	83	1.84	18	0.40	35	0.78	-	-
滋賀県	-	-	12	0.38	5	0.16	25	0.78	34	1.06	60	1.88	11	0.34	12	0.38	-	-
京都府	-	-	57	0.83	19	0.28	154	2.23	30	0.43	36	0.52	19	0.28	24	0.35	1	0.01
大阪府	3	0.02	142	0.80	113	0.64	362	2.05	118	0.67	126	0.71	22	0.12	122	0.69	4	0.02
兵庫県	3	0.02	40	0.31	53	0.41	274	2.14	73	0.57	94	0.73	19	0.15	85	0.66	1	0.01
奈良県	-	-	67	1.91	32	0.91	56	1.60	17	0.49	21	0.60	3	0.09	17	0.49	-	-
和歌山県	-	-	51	1.65	10	0.32	40	1.29	30	0.97	61	1.97	12	0.39	20	0.65	-	-
鳥取県	-	-	34	1.79	5	0.26	76	4.00	12	0.63	3	0.16	6	0.32	16	0.84	-	-
島根県	-	-	23	1.00	14	0.61	90	3.91	11	0.48	6	0.26	9	0.39	11	0.48	-	-
岡山県	1	0.01	24	0.44	14	0.26	154	2.85	18	0.33	22	0.41	-	-	37	0.69	-	-
広島県	-	-	47	0.65	34	0.47	206	2.86	38	0.53	13	0.18	14	0.19	40	0.56	-	-
山口県	-	-	41	0.84	24	0.49	156	3.18	23	0.47	15	0.31	7	0.14	34	0.69	-	-
徳島県	-	-	13	0.65	7	0.35	14	0.70	32	1.60	6	0.30	4	0.20	11	0.55	-	-
香川県	-	-	17	0.53	11	0.34	74	2.31	15	0.47	32	1.00	7	0.22	23	0.72	-	-
愛媛県	-	-	31	0.84	13	0.35	170	4.59	37	1.00	25	0.68	10	0.27	41	1.11	-	-
高知県	-	-	35	1.17	13	0.43	65	2.17	12	0.40	47	1.57	2	0.07	27	0.90	-	-
福岡県	-	-	115	0.96	53	0.44	391	3.26	83	0.69	19	0.16	15	0.13	97	0.81	2	0.02
佐賀県	-	-	34	1.48	8	0.35	27	1.17	11	0.48	3	0.13	9	0.39	26	1.13	-	-
長崎県	-	-	49	1.11	12	0.27	126	2.86	22	0.50	2	0.05	10	0.23	32	0.73	-	-
熊本県	3	0.04	41	0.85	23	0.48	174	3.63	36	0.75	38	0.79	11	0.23	46	0.96	-	-
大分県	-	-	40	1.11	32	0.89	205	5.69	36	1.00	18	0.50	6	0.17	39	1.08	-	-
宮崎県	5	0.09	113	3.23	18	0.51	174	4.97	37	1.06	6	0.17	25	0.71	46	1.31	-	-
鹿児島県	-	-	66	1.18	37	0.66	159	2.84	26	0.46	14	0.25	5	0.09	37	0.66	-	-
沖縄県	23	0.40	14	0.41	24	0.71	68	2.00	19	0.56	49	1.44	1	0.03	21	0.62	1	0.03

*髄膜炎菌性髄膜炎は除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2006年33週

	風しん		ヘルパンギーナ		麻しん (成人麻しんを除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎*		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ 肺炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	8	0.00	2234	0.77	31	0.01	3417	1.18	22	0.04	723	1.17	6	0.01	36	0.08	184	0.41
北海道	1	0.01	279	1.95	11	0.08	209	1.46	-	-	19	0.66	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	82	1.95	-	-	72	1.71	-	-	10	0.91	-	-	-	-	6	1.00
岩手県	1	0.03	37	0.95	-	-	59	1.51	-	-	12	1.00	-	-	-	-	11	0.55
宮城県	-	-	76	1.25	4	0.07	104	1.70	3	0.25	3	0.25	-	-	-	-	1	0.08
秋田県	-	-	47	1.34	-	-	16	0.46	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0.38
山形県	-	-	19	0.63	-	-	16	0.53	-	-	7	0.88	1	0.10	1	0.10	2	0.20
福島県	-	-	33	0.69	-	-	67	1.40	-	-	11	0.92	-	-	-	-	3	0.50
茨城県	-	-	59	0.79	1	0.01	96	1.28	-	-	27	1.80	-	-	-	-	4	0.67
栃木県	-	-	22	0.51	-	-	59	1.37	-	-	21	1.91	1	0.17	-	-	6	1.00
群馬県	-	-	20	0.34	-	-	80	1.38	-	-	50	3.57	1	0.13	1	0.13	19	2.38
埼玉県	-	-	50	0.39	1	0.01	139	1.09	1	0.03	51	1.31	-	-	-	-	6	0.67
千葉県	1	0.01	52	0.48	-	-	62	0.57	5	0.18	32	1.14	-	-	1	0.11	2	0.22
東京都	-	-	53	0.38	-	-	71	0.51	-	-	12	0.86	-	-	1	0.04	2	0.08
神奈川県	-	-	39	0.24	2	0.01	113	0.69	1	0.03	46	1.31	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	33	0.54	1	0.02	220	3.61	-	-	7	0.70	-	-	3	0.27	-	-
富山県	-	-	38	1.31	-	-	30	1.03	-	-	19	2.71	-	-	-	-	4	0.80
石川県	-	-	9	0.31	-	-	16	0.55	-	-	12	1.71	-	-	-	-	2	0.40
福井県	-	-	18	0.82	-	-	4	0.18	-	-	3	1.00	-	-	3	0.50	1	0.17
山梨県	-	-	11	0.46	-	-	46	1.92	-	-	6	0.75	-	-	-	-	3	0.30
長野県	-	-	72	1.31	3	0.05	144	2.62	-	-	29	2.64	-	-	3	0.27	4	0.36
岐阜県	-	-	36	0.69	-	-	33	0.63	-	-	14	1.40	-	-	2	0.40	2	0.40
静岡県	-	-	62	0.72	1	0.01	166	1.93	1	0.05	17	0.85	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	94	0.52	-	-	143	0.79	-	-	20	0.57	-	-	1	0.08	11	0.85
三重県	-	-	35	0.78	-	-	63	1.40	-	-	4	0.33	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	9	0.28	-	-	17	0.53	-	-	25	3.57	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	57	0.83	-	-	40	0.58	-	-	21	1.31	-	-	5	0.83	-	-
大阪府	1	0.01	131	0.74	-	-	268	1.51	-	-	32	0.80	1	0.08	2	0.17	29	2.42
兵庫県	1	0.01	97	0.76	3	0.02	131	1.02	-	-	15	0.43	-	-	5	0.38	1	0.08
奈良県	-	-	11	0.31	2	0.06	20	0.57	-	-	4	0.44	-	-	2	0.33	1	0.17
和歌山県	-	-	24	0.77	-	-	39	1.26	-	-	2	0.50	-	-	-	-	2	0.18
鳥取県	-	-	22	1.16	-	-	25	1.32	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.20
島根県	-	-	12	0.52	-	-	39	1.70	-	-	-	-	-	-	3	0.38	-	-
岡山県	1	0.02	33	0.61	-	-	58	1.07	-	-	4	0.33	1	0.20	-	-	-	-
広島県	-	-	60	0.83	-	-	33	0.46	-	-	34	1.79	-	-	3	0.14	11	0.52
山口県	-	-	47	0.96	-	-	61	1.24	-	-	15	1.67	-	-	-	-	10	1.11
徳島県	-	-	12	0.60	-	-	39	1.95	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
香川県	1	0.03	27	0.84	-	-	35	1.09	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	40	1.08	-	-	30	0.81	-	-	20	2.50	-	-	-	-	7	1.17
高知県	-	-	63	2.10	-	-	21	0.70	-	-	4	1.33	-	-	-	-	1	0.14
福岡県	-	-	84	0.70	-	-	103	0.86	10	0.38	46	1.77	-	-	-	-	9	0.60
佐賀県	-	-	33	1.43	-	-	21	0.91	-	-	3	0.75	-	-	-	-	3	0.50
長崎県	-	-	28	0.64	-	-	22	0.50	-	-	5	0.63	1	0.08	-	-	6	0.50
熊本県	-	-	69	1.44	-	-	39	0.81	-	-	14	1.56	-	-	-	-	2	0.13
大分県	-	-	36	1.00	2	0.06	65	1.81	1	0.20	8	1.60	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	42	1.20	-	-	69	1.97	-	-	17	4.25	-	-	-	-	2	0.29
鹿児島県	1	0.02	14	0.25	-	-	191	3.41	-	-	5	0.71	-	-	-	-	1	0.08
沖縄県	-	-	7	0.21	-	-	23	0.68	-	-	13	1.30	-	-	-	-	6	0.86

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2006年33週

	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻しん		RSウイルス 感染症
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数
総 数	2	0.00	-	-	70
北海道	-	-	-	-	2
青森県	-	-	-	-	2
岩手県	-	-	-	-	1
宮城県	1	0.08	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	1
栃木県	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	1
千葉県	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	1
神奈川県	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	2
大阪府	-	-	-	-	8
兵庫県	-	-	-	-	3
奈良県	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	2
広島県	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	1
徳島県	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	2
高知県	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	12
佐賀県	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	2
鹿児島県	1	0.08	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	25

獣医師が届出を行う感染症と対象動物

(注) 報告数は感染実験等の学術的研究による発生を除く。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2006年33週

	エボラ出血熱		マールブルグ病		ペスト		重症急性呼吸器症候群(SARS)						細菌性赤痢		ウエストナイル熱		エキノコックス症	
	サル		サル		プレーリードッグ		イタチアナグマ		タヌキ		ハクビシン		サル		鳥類		犬	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別 2006年33週

	インフルエンザ(H5N1)	
	鳥類	
	報告数	累積
総 数	-	-
北海道	-	-
青森県	-	-
岩手県	-	-
宮城県	-	-
秋田県	-	-
山形県	-	-
福島県	-	-
茨城県	-	-
栃木県	-	-
群馬県	-	-
埼玉県	-	-
千葉県	-	-
東京都	-	-
神奈川県	-	-
新潟県	-	-
富山県	-	-
石川県	-	-
福井県	-	-
山梨県	-	-
長野県	-	-
岐阜県	-	-
静岡県	-	-
愛知県	-	-
三重県	-	-
滋賀県	-	-
京都府	-	-
大阪府	-	-
兵庫県	-	-
奈良県	-	-
和歌山県	-	-
鳥取県	-	-
島根県	-	-
岡山県	-	-
広島県	-	-
山口県	-	-
徳島県	-	-
香川県	-	-
愛媛県	-	-
高知県	-	-
福岡県	-	-
佐賀県	-	-
長崎県	-	-
熊本県	-	-
大分県	-	-
宮崎県	-	-
鹿児島県	-	-
沖縄県	-	-

感染症週報 第8巻 第33号 2006年9月1日発行
 発行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課

厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター

〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1

T E L : 03-5285-1111

F A X : 03-5285-1129

U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

<国立感染症研究所 感染症情報センター>

<http://www.mhlw.go.jp/>

<厚生労働省>

<http://www.forth.go.jp/>

<旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。